

教議第32号

平成30年度使用教科用図書の採択について（小学校用「特別の教科 道徳」）

平成29年度呉市教科用図書選定委員会

総合所見

平成29年8月21日（月）

呉市教科用図書選定委員会

教科用図書の調査・研究の観点等について【特別の教科 道徳】

特別の教科 道徳の目標	第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
----------------	--

観点	視点	方法
基礎・基本の 定着	① 道徳科の学び方の示し方 ② 主題名の示し方 ③ ねらいに迫るための発問の示し方	○ オリエンテーションのページの示し方 ○ 教材ごとの主題の記載の仕方及び具体例 ○ 発問の記載箇所や数、具体例
主体的に学習 に取り組む工 夫	④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫 ⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫 ⑥ 自己の生き方につなげるための工夫	○ 問題解決的な学習として取り上げている内容項目、問題場面での発問例 ○ 体験的な学習として取り上げている内容項目、活動例 ○ 実生活に生かすような教材等の具体例
内容の構成・ 配列・分量	⑦ 分量や内容項目の数 ⑧ 現代的な課題等を踏まえた内容の示し方	○ 判、ページ総数、内容項目数 ○ いじめ・情報モラルに関する教材等の数、教材名、内容項目
内容の表現・ 表記	⑨ 巻頭・巻末等の取扱いの工夫 ⑩ 教材の内容を理解させる工夫	○ 巻頭・巻末等の示し方、具体例 ○ イラスト・写真・図表等の示し方の工夫、キャラクターやマーク等の活用
言語活動の充 実	⑪ 自分の考えを伝え合う活動の工夫 ⑫ 自分の考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫	○ 話し合いを促す工夫と具体例 ○ 自分の考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫と具体例

平成29年度呉市教科用図書選定委員会 総合所見

校 種	小学校	種 目	「特別の教科 道徳」
観 点	1	基礎・基本の定着	
	2	主体的に学習に取り組む工夫	
	3	内容の構成・配列・分量	
	4	内容の表現・表記	
	5	言語活動の充実	

観点ごとに、特に優れていると考えられるものに【◎】、優れていると考えられるものに【○】を示している。

発 行 者	総合的な所見
東 書	<p>1 ① 第1学年は1つのページに学習活動をイラストで示している。第2学年以上は計8ページで構成されている。内容項目や教材名、学習の流れや約束、学習活動、ショートストーリーを基に話し合う視点を示し、自分の考えを書くページを見開きで各2ページずつ示している。</p> <p>② 同じ内容項目の教材には、まとめて同じ主題名を設定しているため、教材ごとには示していない。教材名のすぐ右横の色分けされた4つの視点のマークの下に示している。</p> <p>③ 第1・2学年は、教材名の下に、キャラクター「こころん」とともに、1個ずつ、第3学年以上は、教材文の終わりに2個ずつ記載している。全学年、全ての教材の決まった位置に適切な数の発問があり、児童がその教材を通してどんなことについて考えたらよいか明確にすることができ、見通しをもって学習できる。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ 問題を見付けて考える教材には、「とびらページ」を付けて問題解決的な学習であることを示している。「考えるステップ」に発問を記載し、児童が問題解決に向けて思考するための工夫がある。</p> <p>⑤ 全学年において、人との関わりの中で考えることができる学習活動として、「出会う・ふれ合う」を設定している。</p> <p>⑥ いくつかの教材の終わりに「つながる 広がる」のページを設け、他の教科の学習とつなげたり、普段の生活に広げたりすることができる工夫がある。また、巻末にも付録「つながる 広がる」のページを設け、文化や自然、先人の言葉等を通して、自己の生き方を考えさせる工夫がある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ 判はA B判。別冊なし。ページ総数120～194。教材数35・36。分量、教材数とも適切である。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材を21教材、「情報モラル」に関する教材を6教材扱っている。全学年において、「いじめのない世界へ」というユニットがあり、重点的な扱いができる工夫がある。ユニットは、いじめを題材</p>

(東書)	<p>として扱った教材といじめを直接的には扱わない教材を組み合わせている。「情報モラル」に関する教材を全学年で扱い、発達段階に応じた指導ができる。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4⑨ 巻頭：目次では、いじめに関する教材にはピンク、問題解決的な学習に関する教材には水色で網掛けをし、タイトルを付けている。巻末：学期ごとの振り返りをするページが3ページ、これからの自分にメッセージ等を書くページが1ページある。また、「つながる 広がる」という見出しで、イラストや写真を掲載した付録がある。</p> <p>⑩ 「問題を見つけて考える」の教材では、とびらページの背景に写真を使用し、全学年で系統性をもたせている。学習の案内役として、「こころん」を設定し、発問を通して自分の生活を見つめさせる等の工夫がある。「出会う・ふれ合う」のマークを付け、コミュニケーション活動によって相互理解を深める学習であることを示している。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5⑪ オリエンテーションのページに「話し合いの約束」を示すとともに、話し合いを促すショートストーリーを設定している。全学年に、「出会う・ふれ合う」があり、児童同士の意見の交流を促す活動を設定している。</p> <p>⑫ 第1学年は学期ごとの教材名を1ページに示し、学習後に色塗りをするページがある。第2学年以上は、自らの学びや成長に気付くことができるように、振り返りとして(4～5か所)、考えたことや学んだこと等を学期ごとに記入できるようになっている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
学 図	<p>1① 教科書「読みもの」は、全学年とも見開き2ページで構成しており、考える視点等をイラストや吹き出し等で示している。教科書「活動」も、全学年とも見開き2ページで構成しており、教科書「読みもの」と教科書「活動」の使い方を示している。</p> <p>② 教材ごとに主題名を示している。教材冒頭の教材名のすぐ右横に太字で示しているため、児童が学習内容のイメージをもちやすい。4つの視点ごとに色分けされた枠内に、4つの視点のマーク、内容項目のキーワード及び教材番号の下に主題名を示している。</p> <p>③ 全学年とも、教科書「活動」の中に、「やってみよう」「かんがえよう」「みつめようアクティブ」等のマークとともに2～3個ずつ記載している。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2④ 教科書「活動」の「はなしあおうアクティブ」マークを付けた発問を、問題解決的な学習を促すための話し合いとして記載している。</p> <p>⑤ 第4学年以外において、教科書「活動」の発問に「やってみようアクティブ」のマークを付けている。</p> <p>⑥ 「オリンピック・パラリンピックがやってくる」、「生き方を学ぼう」</p>

(学図)	<p>等の5つの視点を基にした「読み物コラム」を全学年に掲載することで、児童が道徳の学習を自らの生活と関連付けて考える工夫がある。</p>
	<p>3⑦ 判はA B判。別冊（教科書「活動」）あり。（第1～4学年：50ページ，第5・6学年：54ページ） ページ総数122～154。教材数34・35。教材数が少なめであるが，別冊があり対応可能である。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材を14教材，「情報モラル」に関しては，3教材+12コラムを扱っている。「情報モラル」に関する教材については，第1～3学年では，読み物コラム「言葉・情報モラル」①及び②において，言葉遣いや話し方について扱っている。「いじめ」に関する教材，「情報モラル」に関する教材ともに全学年で扱い，発達段階に応じた指導ができる。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4⑨ 巻頭：目次がある。巻末：内容項目別一覧に，学習の感想をマークで記入するなどの振り返りをするページが1ページある。教科書「活動」に，話合いの仕方の例などを示した「活動の資料」や「活動のヒント」を掲載している。</p> <p>⑩ 教材名の下に，該当する教科書「活動」のページを示すマークがある。教科書「活動」では，「考えよう」「見つめよう」等のマークを付けている。特に，学習を深める活動については，「アクティブ」のマークを付けている。</p> <p>5⑪ オリエンテーションのページに，話合いの具体的な状況を示している。教科書「活動」の巻末に「かつどうのヒント（第1・2学年）」「活動のしりょう（第3・4学年）」（第5・6学年は「資料」と記載）のページがあり，上手な話し方，上手な話し合いの仕方のポイントを示すことで，児童に「考え，議論する」ために大切なことをつかませることができる。</p> <p>⑫ 巻末に，毎時間の学習の記録をマークで記入する欄がある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
教 出	<p>1① 全学年とも，見開き2ページで構成している。右ページには「今の自分について」及び目標等を書き込む欄があり，左ページには道徳の学習ではどのような学びをするかについて示している。</p> <p>② 同じ内容項目の教材をまとめて扱う場合は，先に扱う教材の冒頭の色付けした部分の中に示している。4つの視点ごとに色分けされた枠内のマークの上に示している。見開きで示された教材文の左ページの左上にも横書きで示している。</p> <p>③ 全学年とも，同じ内容項目が連続して配列されている教材は，それぞれの最初の教材の主題名の左横に発問を記載している。全学年とも，各教材の終わりに「学習の手引き」を設け，1～7個（多くは5・6個）記載している。</p>

(教出)	<p>2④ 教材冒頭の主題名の次に、児童に考えさせたいことを記載するとともに、教材文の終わりの「学びの手引き」に、発問を記載している。</p> <p>⑤ 全学年において、教材文の途中に「やってみよう」を設定し、「学びの手引き」に「ジャンプ」を設定している。</p> <p>⑥ 巻末に「補充教材」として、「こころざしをもって」「国や郷土を愛する」等の視点を基に、4～5つの読み物教材を掲載している。第1学年と第2学年は、巻末に「みにつけよう れいぎ・マナー」のページを設けている。</p>
	<p>3⑦ 判はAB判。別冊なし。ページ総数 122～154。教材数 33・34。教材が少なめであるが、補充教材があり対応可能である。補充教材として、第1学年は4教材、第2～6学年は5教材を記載している。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材を19教材、「情報モラル」に関する教材を8教材扱っている。「いじめ」に関する教材は全学年で扱っているが、「情報モラル」に関する教材は第3学年以上で扱っている。</p> <p style="text-align: right;">【〇】</p>
	<p>4⑨ 巻頭：目次では、内容項目ごとに見出しを付けて網掛けをし、複数の教材をまとめている。内容項目の視点ごとに色分けをしてマークを付けている。巻末：1年間の振り返りを書き込み、家の人や先生から一言書き込んでもらうページが1ページある。</p> <p>⑩ 「いじめをなくす」は黄、「情報モラル」は青、「生命尊重」は赤と、色別のマークを付け、目次及び該当ページに示している。</p>
	<p>5⑪ 全学年、巻頭の「道徳の学習が始まるよ」（2学年以上は、“〇学年の”が冒頭につく）の中に、話合いの意義や活動について示している。教材の終わりの「学びの手引き」において、「話し合ってみましょう。」「みんなの意見を聞いて、話し合ってみましょう。」と発問することで、何について話し合うのかを明確に示している。</p> <p>⑫ 巻末に、1年間の学習を振り返るページが設定してあり、3か所の記入欄とともに、「家の人から一言」、「先生から一言」の欄がある。</p> <p style="text-align: right;">【〇】</p>
光 村	<p>1① 第1学年には、オリエンテーションのページはない。第2学年以上は、見開き2ページで構成しており、学習活動や考える視点等をイラストや吹き出しで示している。</p> <p>② 教材ごとに主題名を示している。教材の冒頭に示した4つの視点のマークの下に示している。</p> <p>③ 第1学年は、教材文の後の「かんがえよう」に、めあてとともに2～3個ずつ記載している。第2学年以上は、教材の冒頭に示している主題名の下にあるキャラクター「こころん」の吹き出しに記載している。教材文の後の「考えよう」にめあてとともに記載し、「つなげよう」のキャラクター「きらりん」の吹き出しにも記載している。</p>

	<p>2④ 教材冒頭に、児童に考えさせたいことをキャラクターの吹き出しで表している。教材の終わりの「考えよう」のコーナーにめあてを提示し、問題解決的な学習を促している。</p> <p>⑤ 全学年において、教材文の終わりにある「考えよう」において、「○○になったつもりで話してみましょう。」「演じてみましょう。」等の学習活動を設定している。</p> <p>⑥ 教材と「環境」「国際理解」等の視点を基にしたコラムを組み合わせた「ユニット」を学年毎に2～5つ設定し、自己の生き方についての考えを深めさせるための工夫がある。教材の終わりの「つなげよう」に示された発問や問いかけにより、毎時間、他教科等との関連や日常生活への意識付けをすることができる。</p> <p style="text-align: right;">【〇】</p>
(光村)	<p>3⑦ 判はB5判。別冊なし。ページ総数129～209。教材数34・35。分量が多めである。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材等を29教材+7コラム、「情報モラル」に関する教材等を4教材+4コラム扱っている。「いじめ」に関する教材等は、全学年において、2教材とコラムのユニットがあり、重点的な扱いができる工夫がある。全学年に「公正、公平、社会正義」の教材がある。「情報モラル」に関する教材等を第3学年以上で扱っている。</p>
	<p>4⑨ 巻頭：見開き2ページで詩とイラストを掲載している。目次では、「学習のまとまりを表す印」を付け、学習する順に教材を掲載している。巻末：友達等との人間関係を築くためのこつなどの資料を掲載している。</p> <p>⑩ 教材冒頭では、キャラクター「こころん」、教材の終わりにキャラクター「きらりん」を設定している。1年間の「4・5月」「6～9月」「10～12月」「1～3月」の4つのまとまりに分け、色別のマークで示している。</p>
	<p>5⑪ 第2学年以上のオリエンテーションのページにイラストで話合いの様子を示すとともに、巻末に、第5学年は「感想を表すときの言葉」、第6学年は「感情を表すときの言葉」を示している。教材の終わりの「考えよう」(第3学年以上は「考えよう」「つなげよう」)に、話合いを促す発問を記載している。</p> <p>⑫ 学習のまとまりごとに「学びの記録」というページを設定し、毎時間の振り返りをするすることができる。第2学年以上は、学習のまとまりごとにまとめを記入する欄がある。</p>
日 文	<p>1① 全学年とも計4ページで構成している。視点ごとの1年間に学ぶ内容項目、学習の流れや学習活動を、イラストや写真、吹き出し等を使って、それぞれ見開き2ページで示している。別冊ノートでは、全学年とも、自分の学びたいことや自分のことについて書き込むページを1ページずつ設けている。</p> <p>② 教材ごとに主題名を示している。教材冒頭の教材名のすぐ右横に示し</p>

(日文)	<p>ているため、児童が学習内容のイメージをもちやすい。4つの視点のマークの下に視点ごとの色で色付けした枠を設け、中心部に教材名、その右横に主題名を示している。</p> <p>③ 全学年とも、教材の冒頭の主題名の下にキャラクター「ココロウ」とともに記載している。教材文の終わりに、「考えてみよう」「見つめよう 生かそう」として、キャラクターの吹き出しに2個程度、別冊にも2個記載している。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2④ 教材文の終わりに「学習の手引き」を設定して学習の流れとともに発問を記載することで、児童が学び方を参考にしながら問題解決に向けて学習をすすめるための工夫がある。</p> <p>⑤ 全学年において、教材の終わりに「学習の手引き」として、劇をしたり体を動かしたりして考える教材を設定している。</p> <p>⑥ 「命」「食」等についての題材を扱った特設ページ「心のベンチ」を各学年5つ程度設定することで、児童が他の教育活動と関連付けながら、より広く深く考えることができる工夫がある。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3⑦ 判はA B判。別冊ノートあり。(第1学年：41ページ、第2～6学年：42ページ) ページ総数146～186。教材数37～40。教材のうち、「ふろく」が第1～4学年は3教材、第5・6学年は4教材あり、同じ印の教材と入れ替えて扱うことができる。「ふろく」は入替可能であり、分量、教材数とも適切である。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材等を30教材＋6コラム(心のベンチ)、「情報モラル」に関する教材等を4教材＋3コラム扱っている。「いじめ」に関する教材等は、全学年において、教材やコラムを組み合わせでユニットを設定しており、全学年に内容項目「公正、公平、社会正義」の教材がある。「情報モラル」に関する教材を第3学年以上で扱っている。</p>
	<p>4⑨ 巻頭：目次では、情報モラルやいじめ等をテーマにした見出しを付けており、複数の教材をまとめている。巻末：内容項目別教材一覧表にデジタル欄を設け、パソコン等を使用して学習を深められるようにしている。別冊ノートでは、心に残ったお話と理由を書き込んだり、保護者が記入したりするページが1ページある。</p> <p>⑩ 学習の案内役としてキャラクター「ココロウ」を設定している。「りさ」等の4人のキャラクターを設定し、教材の終わりに発問とともに記載している。学習を広げ深めるページを「心のベンチ」として、マークで示している。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5⑪ オリエンテーションのページに、話合いの具体的な状況を示している。教材の終わりにある「考えてみよう」「見つめよう 生かそう」に話合いを促す発問を示している。また、「学習の手引き」を設定している教</p>

<p>(日文)</p>	<p>材では、問題解決に向けての話合い活動について、グループで話し合う方法を示したり学級全体での話合いを促したりする等の工夫がある。</p> <p>⑫ 別冊ノートに、毎時間の学習について○を付けて自己評価する欄があり、児童自らが学びを振り返ることができる。別冊ノートの巻末に、「道徳の学習で学んだことを書きましょう。」が設けてあり、心に残った話とその理由や保護者からの一言を4つ（第2学年は2つ）抜粋して記入できるようにになっている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
<p>光 文</p>	<p>1 ① 全学年とも8ページで構成している。視点ごとの学ぶ内容、学習の流れや方法、道徳の時間以外の活動との関連を促すページ、教科書の使い方を、イラストや吹き出し等を使って、それぞれ見開き2ページで示している。</p> <p>② 教材ごとに主題名を示し、主題名と併せて児童に考えさせたい問いを記載しているため、児童が学習内容のイメージをもちやすい。教材名の右横に、視点のマークと同系色の色で色付けした部分があり、その中に視点のマーク、マークの下に主題名を示している。</p> <p>③ 教材の冒頭の主題名の左横に記載している。教材文の下のキャラクターの吹き出しに記載している。教材文の終わりに「まとめるマーク」「ひろげるマーク」とともに、記載している。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p> <p>2 ④ 児童に問題意識をもたせるために、教材の冒頭に問いを記載している。教材文の下段に記載している発問の中にも、問題解決につながる発問がある。</p> <p>⑤ 全学年において、コラム「みんなでやってみよう」を設定している。</p> <p>⑥ 「伝統文化」「スポーツ」等の題材を扱ったコラムを掲載しており、児童が他教科や特別活動等の学習につなげて考えることができる工夫がある。毎時間の教材の終わりに「広げる」を設定し、児童が授業で学んだことを生活の中で実践してみたり、もっと深めたりする工夫がある。</p> <p>3 ⑦ 判はA4変形判。別冊なし。ページ総数158～194。教材数40。教材数が多めではあるが、第1学年は6教材、第2～6学年は5教材、「ふろく」が含まれている。「ふろく」は入替可能であり、分量、教材数とも適切である。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材等を18教材+6コラム、「情報モラル」に関する教材等を6教材+8コラム扱っている。「いじめ」に関しては、全学年に「ちびまる子ちゃんと考えよう！」(みんななかよし 楽しい学校)というコラムが系統的に設定してある。また、第2・5学年でユニットがあり、重点的な扱いができる工夫がある。「いじめ」に関する教材、「情報モラル」に関する教材ともに全学年で扱っており、発達段階に応じた指導ができる。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

(光文)	<p>4⑨ 巻頭：目次では、伝統文化や命等をテーマにした見出しを付けて網掛けをし、複数の教材をまとめている。巻末：内容項目別一覧の教材名の欄に、重点主題教材にマークをつけている。1時間ごとに感じたことを書いたり、学期ごとにまとめを書いたりする折り込みページがある。</p> <p>⑩ 「ゆたかさん」等の2人の子供や、「わんだ先生」等の動物のキャラクターを設定している。「ことばのたからもの」マークとともに、教材と関連のある言葉を紹介している。</p>
	<p>5⑪ オリエンテーションのページに話し合う活動を提示し、グループやクラスで話し合いを深めていくよう促している。教材の終わりの「まとめる」、「広げる」において、「～クラスで話し合いましょう。」等と発問することで、何について話し合うのかを明確に示している。</p> <p>⑫ 巻末に「学びの足あと」を折り込みページで設けてあり、第1・2学年は、毎時間の授業後の気持ちを顔マークで、第3学年以上は矢印で表す。第3学年以上は一言を記入する欄もある。全学年、自らの学びや成長に気付くことができるように、「まとめ」の欄が3か所あり、学期ごとの振り返りを記入できるようになっている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
学 研	<p>1① 全学年とも4ページで構成している。最初の見開き2ページには、右ページに学習活動をイラストや説明で示し、左ページに自分のことについて書き込む欄を設けている。次の見開き2ページには、4つの視点ごとに1年間に学ぶ内容項目と教材名を示している。</p> <p>② 教材文には主題名は示していない。巻頭の見開き2ページの中で、主題ごとに教材名をまとめ、示している。色別の4つの視点のマークと文字で示している。</p> <p>③ 全学年とも、教材文の後の「考えよう」に2個、問題解決的な学習として扱っている教材には4個の発問を学習展開に即して記載している。全学年、全ての教材の決まった位置に適切な数の発問があり、児童がその教材を通してどんなことについて考えたらよいか明確にすることができ、思考しやすくなっている。</p>
	<p>2④ 問題解決的に扱う教材については、教材の終わりの「深めよう」において、学習の流れとともに発問を記載することで、児童が見通しをもって問題解決に向けて学習をすすめるための工夫がある。</p> <p>⑤ 全学年において、教材の終わりに「やってみよう」を設定している。</p> <p>⑥ 「つなげよう」「広げよう」等の4種類の「学び方のページ」を設け、教材で学習したことを基に、児童が自分の生活や生き方につなげて考えることができる工夫がある。実在の人物を取り上げた教材が全学年合わせて50ある。内容項目では、「希望と勇気、努力と強い意志」が10で一番多く、錦織圭、吉田沙保里、内村航平などスポーツ選手を多く取り上げている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

(学研)	<p>3⑦ 判はA4判で他者と比べて大きめである。別冊なし。ページ総数132～168。教材数34・35。分量、教材数は適切である。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材を28教材、「情報モラル」に関する教材を6教材扱っている。「いじめ」に関する教材は第3・4学年でユニットがあり、重点的な扱いができる工夫がある。「いじめ」に関する教材、「情報モラル」に関する教材ともに全学年で扱っており、発達段階に応じた指導ができる。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4⑨ 巻頭：見開き2ページで写真と詩を掲載している。目次では、いのち等をテーマにした見出しを付けて網掛けをし、複数の教材をまとめている。巻末：心に残った話などを記入するページが1ページある。</p> <p>⑩ ユニット教材のとびらのページの背景に写真を使用している。鉛筆のマークを付けて、自分の考えや友達の考えを記述できるようにしている。家のマークを付けて、家庭と連携する学習活動を示している。</p>
	<p>5⑪ オリエンテーションのページに、話し合う活動を提示し、話合いのポイントを示している。「学び方のページ」の中の「深めよう」のページに学習展開を示し、学習活動の一つとして話合い活動を位置付けており、児童の思考を深めるための工夫となっている。</p> <p>⑫ 全学年、巻末に「心に残った話」や「心に増えた宝物」を記入する欄が5か所ある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
廣あかつき	<p>1① 全学年とも、道徳の時間に学ぶ意義について示したページが1ページ、それに加えて、第2学年以上では、道徳の学習活動を見開き2ページで示している。別冊ノート1ページの1ページ目に、今の自分を見つめて書き込む欄を設けている。</p> <p>② 教材ごとに主題名を示している。教材名のすぐ右横に4つの視点ごとに色でラインを引き、その中に主題名を示している。</p> <p>③ 全学年とも、教材の終わりの「考えよう 話し合おう」に、3～5個記載している。第3学年以上は、同コーナーに、「学習の道すじ」として、めあてとともに記載している。別冊「道徳ノート」に、鉛筆のマークとともに、1～2個記載している。</p>
	<p>2④ 教材文の終わりの「考えよう 話し合おう」に「学習の道すじ」として、めあて及び発問を記載し、問題解決的な学習を促している。</p> <p>⑤ 第3学年以上において、教材の終わりの「学習を広げる」の中で「活動しよう」を設定している。</p> <p>⑥ 巻末に、「生命尊重」「ともに生きる社会」等、他の教育活動との関連を図りながら、身近な問題として考えることができる読み物教材を掲載している。</p>
	<p>3⑦ 判はAB判。別冊ノートあり。(第1・2学年：60ページ、第3・4学年：64ページ、第5・6学年：72ページ) ページ総数118～170。</p>

(廣あかつき)	<p>教材数34・35。分量，教材数は適切である。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材を18教材，「情報モラル」に関する教材等を7教材＋4コラム扱っている。「いじめ」に関する教材は全学年で扱っているが，「情報モラル」に関する教材は第3学年以上で扱っている。</p>
	<p>4⑨ 巻頭：目次のあとに，詩を1ページ掲載している。巻末：別冊ノートに，心に残っている授業や体験活動を記録する欄を設けているページが7～13ページある。1時間ごとの振返りを記号で記入し，学期ごとに内容項目を振り返る折り込みページがある。</p> <p>⑩ 第3学年以上は，教材と関連して学習を深める読み物等のページに「葉」のマークを付けている。第3学年以上の「考えよう話し合おう」のコーナーの中に，「学習の道すじ」や「学習を広げる」マークを付けている。別冊「道徳ノート」の中で，教材を通して感じたことや考えたことをまとめるところに鉛筆のマークを付けている。</p>
	<p>5⑪ オリエンテーションのページで，話合いの意義やポイントに触れている。教材の終わりに，「考えよう話し合おう」を設定している。</p> <p>⑫ 別冊ノートに，内容項目ごとに振返りを記入する欄が2か所ずつある。別冊ノートの巻末に「心に残っている授業の記録」（全学年），「かんじたことや考えたこと」（第1・2学年），「学習の記録」（第3学年以上），「話し合い活動の記録」（第4学年以上），「体験活動の記録」（第4学年以上）を記入する欄がある。「心のしおり」という折り込みページがあり，毎時間の振返りを色塗りで表し，「先生や家の人に見てもらった記録」という欄がある。</p>

【観点1】基礎・基本の定着

◆:視点, ◇方法
◎:特に優れている, ○:優れている

①		②		③	
発行者	◆ 道徳科の学び方の示し方 ◇ オリエンテーションのページの示し方	◆ 主題名の示し方 ◇ 教材ごとの主題の記載の仕方及び具体例	◆ ねらいに迫るための発問の示し方 ◇ 発問の記載箇所や数, 具体例		
東書	第1学年は1つのページに学習活動をイラストで示している。第2学年以上は計8ページで構成されている。内容項目や教科名, 学習の流れや約束, 学習活動, ショートストーリーを基に話し合う視点を示し, 自分の考えを書くページを見開きで各2ページずつ示している。 教科書「読みもの」は, 全学年とも見開き2ページで構成しており, 考える視点等をイラストや吹き出し等で示している。教科書「活動」も, 全学年とも見開き2ページで構成しており, 教科書「読みもの」と教科書「活動」の使い方を示している。	教材ごとに主題名を示している。教材冒頭の教材名のすぐ右横に太字で示しているため, 児童が学習内容のイメージをもちやすい。4つの視点ごとに色分けされた枠内に, 4つの視点のマーク, 内容項目のキーワード及び教材番号の下に主題名を示している。	第1・2学年は, 教材名の下に, キヤラクター「こころん」とともに, 1個ずつ, 第3学年以上は, 教材文の終わりに2個ずつ記載している。全学年, 全ての教材の決まった位置に適切な数の発問があり, 児童がその教材を通してどんなことについて考えたらよいか明確にすることができ, 見通しをもって学習できる。	○	
学図	全学年とも, 見開き2ページで構成している。右ページには「今の自分について」及び目標等を書き込む欄があり, 左ページには道徳の学習ではどのような学びをするかについて示している。	同じ内容項目の教材をまとめて扱う場合は, 先に扱う教材の冒頭の色分け部分の中に示している。4つの視点ごとに色分けされた枠内の上左に示している。見開きで示された教材文の左ページにも横書きで示している。	全学年とも, 教科書「活動」の中に, 「やってみよう」「かんがえよう」「みつめよう」アクティヴ等のマークとともに2〜3個ずつ記載している。	○	
教出	全学年とも, 見開き2ページで構成している。右ページには「今の自分について」及び目標等を書き込む欄があり, 左ページには道徳の学習ではどのような学びをするかについて示している。	同じ内容項目の教材をまとめて扱う場合は, 先に扱う教材の冒頭の色分け部分の中に示している。4つの視点ごとに色分けされた枠内の上左に示している。見開きで示された教材文の左ページにも横書きで示している。	全学年とも, 同じ内容項目が連続して配列されている教材は, それぞれの最初の教材の主題名の左横に発問を記載している。全学年とも, 各教材の終わりに「学習の手引き」を設け, 1〜7個(多くは5・6個)記載している。		
光村	第1学年には, オリエンテーションのページはない。第2学年以上は, 見開き2ページで構成しており, 学習活動や考える視点等をイラストや吹き出しで示している。	教材ごとに主題名を示している。教材冒頭の教材名のすぐ右横に示しているため, 児童が学習内容のイメージをもちやすい。4つの視点のマークの下に視点ごとの色分けした枠を設け, 中心部に教材名, その右横に主題名を示している。	第1学年は, 教材文の後の「かんがえよう」に, めあてとともに2〜3個ずつ記載している。第2学年以上は, 教材の冒頭に示している主題名の下にあるキヤラクター「こころん」の吹き出しに記載している。教材文の後の「考えよう」にめあてとともに記載し, 「つなげよう」のキヤラクターに記載し, 「きらりん」の吹き出しにも記載している。		
日文	全学年とも計4ページで構成している。視点ごとの1年間に学ぶ内容項目, 学習の流れや学習活動を, イラストや写真, 吹き出し等を使って, それぞれ見開き2ページで示している。別冊ノートでは, 全学年とも, 自分の学びたいことや自分のことについて書き込むページを1ページずつ設けている。	教材ごとに主題名を示している。教材冒頭の教材名のすぐ右横に示しているため, 児童が学習内容のイメージをもちやすい。4つの視点のマークの下に視点ごとの色分けした枠を設け, 中心部に教材名, その右横に主題名を示している。	全学年とも, 教材の冒頭の主題名の下にキヤラクター「コロウ」とともに記載している。教材文の終わりに, 「考えてみよう」「見よう生かそう」として, キヤラクターの吹き出しに2個程度, 別冊にも2個記載している。	○	
光文	全学年とも8ページで構成している。視点ごとの学ぶ内容, 学習の流れや方法, 道徳の時間以外の活動との関連を促すページ, 教科書の使い方, イラストや吹き出し等を使って, それぞれ見開き2ページで示している。	教材ごとに主題名を示し, 主題名と併せて児童が考えたい問いを記載している。児童が学習内容のイメージをもちやすい。教材名の右横に, 視点のマークと同色の色で色分けした部分があり, その中に視点のマーク, マークの下に主題名を示している。	教材の冒頭の主題名の左横に記載している。教材文の下のキヤラクターの吹き出しに記載している。教材文の終わりに「まとめマーク」「ひろげるマーク」とともに, 記載している。	○	
学研	全学年とも4ページで構成している。最初の見開き2ページには, 右ページに学習活動をイラストで示し, 左ページに自分のことについて書き込む欄を設けている。次の見開き2ページには, 4つの視点ごとに1年間に学ぶ内容項目と教材名を示している。	教材文には主題名は示していない。巻頭の見開き2ページの中で, 主題ごとに教材名をまとめ, 示している。色別の4つの視点のマークと文字で示している。	全学年とも, 教材文の後の「考えよう」に2個, 問題解決的な学習として扱っている教材には4個の発問を学習展開に即して記載している。全学年, 全ての教材の決まった位置に適切な数の発問があり, 児童がその教材を通してどんなことについて考えたらよいか明確にすることができ, 思考しやすくなっている。		
廣あかつき	全学年とも, 道徳の時間に学ぶ意義について示したページが1ページ, それに加えて, 第2学年以上では, 道徳の学習活動を見開き2ページで示している。別冊ノートの11ページ目に, 今の自分を見つめて書き込む欄を設けている。	教材ごとに主題名を示している。教材名のすぐ右横に4つの視点ごとに色でラインを引き, その中に主題名を示している。	全学年とも, 教材の終わりの「考えよう」話し合おう」に, 3〜5個記載している。第3学年以上は, 同コーナーに, 「学習の道すじ」として, めあてとともに記載している。別冊「道徳ノート」に, 鉛筆のマークとともに, 1〜2個記載している。		

【観点2】主体的に学習に取り組む工夫

◆:視点,◇方法
◎:特に優れている,○:優れている

発行者	④	⑤	⑥
東書	<p>◆ 問題解決的な学習を取り入れた工夫 ◇ 問題解決的な学習として取り上げている内容項目、問題場面での発問例 問題を見付けて考える教材には、「とびらページ」を付けて問題解決的な学習であることを示している。「考えるステップ」に発問を記載し、児童が問題解決に向けて思考するための工夫がある。</p>	<p>◆ 体験的な学習を取り入れた工夫 ◇ 体験的な学習として取り上げている内容項目、活動例 全学年において、人との関わりの中で考えることができる学習活動として、「出会う・ふれ合う」を設定している。</p>	<p>◆ 自己の生き方につなげるための工夫 ◇ 実生活に生かすような教材等の具体例 いくつかの教材の終わりに「つながる広がる」のページを設け、他の教科の学習とつなげたり、普段の生活に広げたりすることができたり工夫がある。また、巻末にも付録「つながる広がる」のページを設け、文化や自然、先人の言葉等を通して、自己の生き方を考えさせる工夫がある。</p>
学図	<p>教科書「活動」の「はなしあおうアクティブ」マークを付けた発問を、問題解決的な学習を促すための話合いとして記載している。</p>	<p>第4学年以外において、教科書「活動」の発問に「やってみようアクティブ」のマークを付けている。</p>	<p>「オリンピック・パラリンピックがやってくる」、「生き方を学ぼう」等の5つの視点を基にした「読み物コラム」を全学年に掲載することで、児童が道徳の学習を自らの生活と関連付けて考えられる工夫がある。</p>
教出	<p>教材冒頭の主題名の次に、児童に考えさせたいことを記載するとともに、教材文の終わりの「学びの手引き」に、発問を記載している。</p>	<p>全学年において、教材文の途中に「やってみよう」を設定し、「学びの手引き」に「ジャンプ」を設定している。</p>	<p>巻末に「補充教材」として、「こころざしをもつて」「国や郷土を愛する」等の視点を基に、4～5つの読み物教材を掲載している。第1学年と第2学年は、巻末に「みにつけよう れいぎ・マナー」のページを設けている。</p>
光村	<p>教材冒頭に、児童に考えさせたいことをキャラクターの吹き出しで表している。教材の終わりの「考えよう」のコーナーに、めあてを提示し、問題解決的な学習を促している。</p>	<p>全学年において、教材文の終わりにある「考えよう」において、「〇〇になつたりもりで話してみよう。」、「演じてみよう。」、「ましよう。」等の学習活動を設定している。</p>	<p>教材と「環境」「国際理解」等の視点を基にしたコラムを組み合わせた「ユニット」を学年毎に2～5つ設定し、自己の生き方についての考えを深めさせるための工夫がある。教材の終わりの「つなげよう」に示された発問や問いかけにより、毎時間、他教科等との関連や日常生活への意識付けをすることができている。</p>
日文	<p>教材文の終わりに「学習の手引き」を設定して学習の流れとともに発問を記載することで、児童が学び方を参考にしながら問題解決に向けて学習をすすめるための工夫がある。</p>	<p>全学年において、教材の終わりに「学習の手引き」として、劇をしたり体を動かしたりして考えられる教材を設定している。</p>	<p>「命」「食」等についての題材を扱った特設ページ「心のベンチ」を各学年5つ程度設定することで、児童が他の教育活動と関連付けながら、より深く考えることができる工夫がある。</p>
光文	<p>児童に問題意識をもたせるために、教材の冒頭に問いを記載している。教材文の下部に記載している発問の中にも、問題解決につながる発問がある。</p>	<p>全学年において、コラム「みんなやってみよう」を設定している。</p>	<p>「伝統文化」「スポーツ」等の題材を扱ったコラムを掲載しており、児童が他教科や特別活動等の学習につなげて考えられることができる工夫がある。毎時間の教材の終わりに「広げる」を設定し、児童が授業で学んだことを生活の中で実践してみたり、もっと深めたりする工夫がある。</p>
学研	<p>問題解決的に扱う教材については、教材の終わりの「深めよう」において、学習の流れとともに発問を記載することで、児童が見通しをもって問題解決に向けて学習をすすめるための工夫がある。</p>	<p>全学年において、教材の終わりに「やってみよう」を設定している。</p>	<p>「つなげよう」「広げよう」等の4種類の「学び方のページ」を設け、教材で学習したことに基づき、児童が自分の生活や生き方につなげて考えられる工夫がある。実在の人物を取り上げた教材が全学年と合わせ50ある。内容項目では、「希望と勇氣、努力と強い意志」が10で一番多く、スポーツ選手を多く取り上げている。</p>
廣あかつき	<p>教材文の終わりの「考えよう 話し合おう」に「学習の道すじ」として、めあて及び発問を記載し、問題解決的な学習を促している。</p>	<p>第3学年以上において、教材の終わりに「やってみよう」を設定している。</p>	<p>巻末に、「生命尊重」「ともに生きる社会」等、他の教育活動との関連を図りながら、身近な問題として考えられることができる読み物教材を掲載している。</p>

【観点3】内容の構成・配列・分量

◆:視点,◇方法
◎:特に優れている,○:優れている

⑦		⑧	
◆ 分量や内容項目の数		◆ 現代的な課題等を踏まえた内容の示し方	
発行者	◇ 判, ページ総数, 内容項目数	◇ いじめ・情報モラルに関する教材等の数, 教材名, 内容項目	
東書	判はA B判。別冊なし。ページ総数120～194。教材数35・36。分量, 教材数とも適切である。	「いじめ」に関する教材を21教材, 「情報モラル」に関する教材を6教材扱っている。全学年において, 「いじめのない世界へ」というユニットがあり, 重点的な扱いが可能な工夫がある。ユニットは, いじめを題材として扱った教材といじめを直接的には扱わない教材を組み合わせている。「情報モラル」に関する教材を全学年で扱い, 発達段階に応じた指導ができる。	
学図	判はA B判。別冊(教科書「活動」)あり。(第1～4学年:50ページ, 第5・6学年:54ページ) ページ総数122～154。教材数34・35。教材数が少なめであるが, 別冊があり対応可能である。	「いじめ」に関する教材を14教材, 「情報モラル」に関しては, 3教材+12コラムを扱っている。「情報モラル」に関する教材については, 第1～3学年では, 読み物コラム「言葉・情報モラル」①及び②において, 言葉遣いや話し方について扱っている。「いじめ」に関する教材, 「情報モラル」にも全学年で扱い, 発達段階に応じた指導ができる。	
教出	判はA B判。別冊なし。ページ総数122～154。教材数33・34。教材が少なめであるが, 補充教材があり対応可能である。補充教材として, 第1学年は4教材, 第2～6学年は5教材を記載している。	「いじめ」に関する教材を19教材, 「情報モラル」に関する教材を8教材扱っている。「いじめ」に関する教材は全学年で扱っているが, 「情報モラル」に関する教材は第3学年以上で扱っている。	
光村	判はB 5判。別冊なし。ページ総数129～209。教材数34・35。分量が多めである。	「いじめ」に関する教材等を29教材+7コラム, 「情報モラル」に関する教材等を4教材+4コラム扱っている。「いじめ」に関する教材等は, 全学年において, 2教材とコラムのユニットがあり, 重点的な扱いが可能な工夫がある。全学年に「公正, 公平, 社会正義」の教材がある。「情報モラル」に関する教材等を第3学年以上で扱っている。	
日文	判はA B判。別冊ノートあり。(第1学年:41ページ, 第2～6学年:42ページ) ページ総数146～186。教材数37～40。教材のうち, 「ふろく」が第1～4学年は3教材, 第5・6学年は4教材あり, 同じ印の教材と入れ替えて扱うことができる。「ふろく」は入替可能であり, 分量, 教材数とも適切である。	「いじめ」に関する教材等を30教材+6コラム(心のペンチ), 「情報モラル」に関する教材等を4教材+3コラム扱っている。「いじめ」に関する教材等は, 全学年において, 教材やコラムを組み合わせてユニットを設定しており, 全学年に内容項目「公正, 公平, 社会正義」の教材がある。「情報モラル」に関する教材を第3学年以上で扱っている。	
光文	判はA 4変形判。別冊なし。ページ総数158～194。教材数40。教材数が多めではあるが, 第1学年は6教材, 第2～6学年は5教材, 「ふろく」が含まれている。「ふろく」は入替可能であり, 分量, 教材数とも適切である。	「いじめ」に関する教材等を18教材+6コラム, 「情報モラル」に関する教材等を6教材+8コラム扱っている。「いじめ」に関しては, 全学年に「ちびまる子ちゃん」と考えよう!(みんななかよし 楽しい学校) というコラムが系統的に設定してある。また, 第2・5学年でユニットがあり, 重点的な扱いが可能な工夫がある。「いじめ」に関する教材, 「情報モラル」に関する教材ともに全学年で扱っており, 発達段階に応じた指導ができる。	
学研	判はA 4判で他者と比べて大きめである。別冊なし。ページ総数132～168。教材数34・35。分量, 教材数は適切である。	「いじめ」に関する教材を28教材, 「情報モラル」に関する教材を6教材扱っている。「いじめ」に関する教材は第3・4学年でユニットがあり, 重点的な扱いができる工夫がある。「いじめ」に関する教材, 「情報モラル」に関する教材ともに全学年で扱っており, 発達段階に応じた指導ができる。	
廣あかつき	判はA B判。別冊ノートあり。(第1・2学年:60ページ, 第3・4学年:64ページ, 第5・6学年:72ページ) ページ総数118～170。教材数34・35。分量, 教材数は適切である。	「いじめ」に関する教材を18教材, 「情報モラル」に関する教材等を7教材+4コラム扱っている。「いじめ」に関する教材は全学年で扱っているが, 「情報モラル」に関する教材は第3学年以上で扱っている。	

【観点4】内容の表現・表記

◆:視点,◇方法
◎:特に優れている,○:優れている

⑨		⑩	
発行者	◆ 巻頭・巻末等の取扱いの工夫 ◇ 巻頭・巻末等の示し方,具体例	◆ 教材の内容を理解させる工夫 ◇ イラスト・写真・図表等の示し方の工夫,キャラクターやマーク等の活用	
東書	巻頭:目次では,いじめに関する教材にはピンク,問題解決的な学習に関する教材には水色で網掛けをし,タイトルを付けている。巻末:学期ごとの振り返りをするページが3ページ,これからの自分にメッセージ等を書くページが1ページある。また,「つながる広がる」という見出しで,イラストや写真を掲載した付録がある。	「問題を見つけて考える」の教材では,とびらページの背景に写真を使用し,全学年で系統性をもたせている。学習の案内役として,「ころん」を設定し,発問を通して自分の生活を見つめさせる等の工夫がある。「出会う・ふれ合う」のマークを付け,コミュニケーション活動によって相互理解を深める学習であることを示している。	◎
学図	巻頭:目次がある。巻末:内容項目別一覧に,学習の感想をマークで記入するなどの振り返りを仕方の例などを示した「活動の資料」や「活動のヒント」を掲載している。	教材名の下に,該当する教科書「活動」のページを示すマークがある。教科書「活動」では,「考えよう」「見よう」等のマークを付けている。特に,学習を深める活動については,「アクティブ」のマークを付けている。	
教出	巻頭:目次では,内容項目ごとに見出しを付けて網掛けをし,複数の教材をまとめている。内容項目の視点ごとに色分けをしてマークを付けている。巻末:1年間の振り返りを書き込み,家の人や先生から一言書き込んでもらうページが1ページある。	「いじめをなくす」は黄,「情報モラル」は青,「生命尊重」は赤と,色別のマークを付け,目次及び該当ページに示している。	
光村	巻頭:見開き2ページで詩とイラストを掲載している。目次では,「学習のまとまりを表す印」を付け,学習する順に教材を掲載している。巻末:友達等との人間関係を築くためのこつなどの資料を掲載している。	教材冒頭では,キャラクター「ころん」,教材の終わりにキャラクター「きらりん」を設定している。1年間を「4・5月」「6～9月」「10～12月」「1～3月」の4つのまとまりに分け,色別のマークで示している。	
日文	巻頭:目次では,情報モラルやいじめ等をテーマにした見出しを付けており,複数の教材をまとめている。巻末:内容項目別教材一覧表にデジタル欄を設け,パソコン等を使用して学習を深められるようにしている。別冊ノートでは,心に残ったお話を理由を書き込んだり,保護者が記入したりするページがある。	学習の案内役としてキャラクター「コロロウ」を設定している。「りさ」等の4人のキャラクターを設定し,教材の終わりに発問とともに記載している。学習を広げ深めるページを「心のペンチ」として,マークで示している。	○
光文	巻頭:目次では,伝統文化や命等をテーマにした見出しを付けて網掛けをし,複数の教材をまとめている。巻末:内容項目別一覧の教材名の欄に,重点主題教材にマークをつけている。1時間ごとに感じたことを書いて,学期ごとにまとめる書き取りする折り返しページがある。	「ゆたかさん」等の2人の子供や,「わんだ先生」等の動物のキャラクターを設定している。「ことばのたからもの」マークとともに,教材と関連のある言葉を紹介している。	
学研	巻頭:見開き2ページで写真と詩を掲載している。目次では,いのち等をテーマにした見出しを付けて網掛けをし,複数の教材をまとめている。巻末:心に残った話を記入するページが1ページある。	ユニット教材のとびらのページの背景に写真を使用して,鉛筆のマークを付けて,自分の考えや友達のことを記述できるようにしている。家のマークを付けて,家庭と連携する学習活動を示している。	
廣あかつき	巻頭:目次のあとに,詩を1ページ掲載している。巻末:別冊ノートに,心に残っている授業や体験活動を記録する欄を設けている。ページが7～13ページある。1時間ごとの振り返りを記号で記入し,学期ごとに内容項目を振り返る折り返しページがある。	第3学年以上は,教材と関連して学習を深める読み物等のページに「葉」のマークを付けている。第3学年以上の「考えよう話し合おう」のマークを付けている。「学習の道すじ」や「学習を広げる」マークを通して感じたことや考えたことをノートの中で,教材を通して感じたことや考えたことをまとめるところに鉛筆のマークを付けている。	

【観点5】言語活動の充実

◆:視点, ◇方法
◎:特に優れている, ○:優れている

発行者	⑪	⑫
東書	<p>◆ 自分の考えを伝え合う活動の工夫 ◇ 話し合いを促す工夫と具体例</p> <p>オリエンテーションのページに「話し合いの約束」を示すとともに、話し合いを促すショートストーリーを設定している。全学年に、「出会う・ふれ合う」があり、児童同士の意見の交流を促す活動を設定している。</p>	<p>◆ 自分の考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫 ◇ 自分の考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫と具体例</p> <p>第1学年は学期ごとの教材名を1ページに示し、学習後に色塗りをするページがある。第2学年以上は、自らの学びや成長に気付くことができようように、振り返りとして(4～5か所)、考えたことや学んだことを学期ごとに記入できるようになっている。</p>
学図	<p>オリエンテーションのページに、話し合いの具体的な状況を示している。教科書「活動」の巻末に「かつどうのヒント(第1・2学年)」「活動のしりょう(第3・4学年)」「(第5・6学年は「資料」と記載)のページがあり、上手な話し方、上手な話し合いの仕方のポイントを示すこととで、児童に「考え、議論する」ために大切なことをつかませることができている。</p>	<p>巻末に、毎時間の学習の記録をマークで記入する欄がある。</p>
教出	<p>全学年、巻頭の「道徳の学習が始まるよ」(2学年以上は、「○学年の」が冒頭につく)の中に、話し合いの意義や活動について示している。教材の終わりの「学びの手引き」において、「話し合ってみよう。」「みんなの意見を聞いて、話し合ってみよう。」「と発問すること、何について話し合うのかを明確に示している。</p>	<p>巻末に、1年間の学習を振り返るページが設定してあり、3か所の記入欄とともに、「家の人から一言」、「先生から一言」の欄がある。</p>
光村	<p>第2学年以上のオリエンテーションのページにイラストで話し合いの様子を示すとともに、巻末に、「感じる言葉」を表すときの言葉、第6学年は「感情を表すときの言葉」を示している。教材の終わりの「考えよう」(第3学年以上は「考えよう」「つなげよう」)に、話し合いを促す発問を記載している。</p>	<p>学習のまとめと振り返りに「学びの記録」というページを設定し、毎時間の振り返りをすることができている。第2学年以上は、学習のまとめとめを記入する欄がある。</p>
日文	<p>オリエンテーションのページに、話し合いの具体的な状況を示している。教材の終わりにある「考えてみよう」「見つけよう 生かそう」に話し合いを促す発問を示している。また、「学習の手引き」を設定している教材では、問題解決に向けての話し合い活動について、グループで話し合う方法を示したり学級全体での話し合いを促したりする等の工夫がある。</p>	<p>別冊ノートに、毎時間の学習について○を付けて自己評価する欄があり、児童自らが学びを振り返ることができている。別冊ノートの巻末に、「道徳の学習で学んだことを書きましよう。」が設けてあり、心に残った話とその理由や保護者からの一言を4つ(第2学年は2つ)抜粋して記入できるようになっている。</p>
光文	<p>オリエンテーションのページに話し合う活動を提示し、グループやクラスで話し合いを深めていくよう促している。教材の終わりの「まとめよう」、「広げよう」において、「～クラスで話し合ってみよう。」「等と発問すること、何について話し合うのかを明確に示している。</p>	<p>巻末に「学びの足あと」を折り込みページで設定してあり、第1・2学年は、毎時間の授業後の気持ちを顔マークで、第3学年以上は矢印で表す。第3学年以上は一言を記入する欄もある。全学年、自らの学びや成長に気付くことができるようになり、「まとめ」の欄が3か所あり、学期ごとの振り返りを記入できるようになっている。</p>
学研	<p>オリエンテーションのページに、話し合う活動を提示し、話し合いのポイントを示している。「学び方のページ」の中の「深めよう」のページに学習展開を示し、学習活動の一つとして話し合い活動を位置付けており、児童の思考を深めるための工夫となっている。</p>	<p>全学年、巻末に「心に残った話」や「心に増えた宝物」を記入する欄が5か所ある。</p>
廣あかつき	<p>オリエンテーションのページで、話し合いの意義やポイントに触れている。教材の終わりに、「考えよう 話し合う」を設定している。</p>	<p>別冊ノートに、内容項目ごとに振り返りを記入する欄が2か所ずつある。別冊ノートの巻末に「心に残っている授業の記録」(全学年)、「かんじたことや考えたこと」(第1・2学年)、「学習の記録」(第3学年以上)、「話し合い活動の記録」(第4学年以上)、「体験活動の記録」(第4学年以上)を記入する欄がある。「心のしおり」という折り込みページがあり、毎時間の振り返りを色塗りで表し、「先生や家の人に見てもらった記録」という欄がある。</p>

資 料

1	教科用図書採択スケジュール	・・・ 1
2	平成30年度使用教科用図書（小学校「特別の教科 道徳」）の採択手続について	・・・ 2
3	平成30年度に呉市立小・中学校で使用する教科用図書の採択に係る基本方針について	・・・ 3～4
4	平成30年度使用教科用図書（小学校「特別の教科 道徳」）採択のための調査・研究要項	・・・ 5～6

教科用図書採択スケジュール

	小学校		中学校		高等学校	
	教科用 図書	学習指導 要領	教科用 図書	学習指導 要領	教科用 図書	学習指導 要領
平成26年度	採択	〃	〃	〃	採択	学年進行
平成27年度		〃	採択	〃	採択	全面実施
平成28年度		〃		〃	採択	〃
平成29年度	特別の教科 道徳 採択	〃		〃	採択	〃
平成30年度	採択	特別の教科 道徳 全面実施	特別の教科 道徳 採択	〃	採択	〃
平成31年度	採択	〃	採択	特別の教科 道徳 全面実施	採択	〃
平成32年度		全面実施	採択	〃	採択	〃

○ 義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律
(昭和三十八年十二月二十一日 法律第百八十二号)

第三章 採択

(同一教科用図書を採択する期間)

第十四条 義務教育諸学校において使用する教科用図書については、政令で定めるところにより、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとする。

○ 義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令
(昭和三十九年二月三日 政令第十四号)

(採択の時期)

第十四条 義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択は、当該教科用図書を使用する年度の前年度の八月三十一日までに行なわなければならない。

2 九月一日以後において新たに教科用図書を採択する必要があるときは、速やかに教科用図書の採択を行わなければならない。

(同一教科用図書を採択する期間)

第十五条 法第十四条の規定により種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間(以下この条において「採択期間」という。)は、学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)附則第九条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、四年とする。

平成30年度使用教科用図書（小学校「特別の教科 道徳」）の採択 手続について

1 採択の方針

「呉市教科用図書の採択に関する規程」及び「平成30年度に呉市立小・中学校で使用する教科用図書の採択に係る基本方針」による。

2 採択の手順

別紙「教科用図書採択の手順【小学校「特別の教科 道徳」】」及び「平成30年度使用教科用図書（小学校「特別の教科 道徳」）採択のための調査・研究要項」による。

3 日程

- 4月21日（金）「呉市教科用図書の採択に関する規程の一部を改正する訓令の制定について」定例教育委員会会議で採決
- 4月27日（木）採択の基本方針等を広島県教育委員会会議で決定
- 5月22日（月）「平成30年度に呉市立小・中学校で使用する教科用図書の採択に係る基本方針」を定例教育委員会会議で採決
- 6月 5日（月）第1回選定委員会
- 6月 9日（金）第1回調査・研究委員会
- 6月23日（金）第2回調査・研究委員会
- 7月24日（月）第3回調査・研究委員会
- 8月 7日（月）第2回選定委員会
- 8月17日（木）第3回選定委員会
- 8月21日（月）教育長への報告（選定委員会委員長の文書報告）
- 8月22日（火）8月定例教育委員会会議（採択・議決）

4 選定に関する注意事項

- (1) 発行者の勧誘宣伝行為に誘発されて、公正を疑われる言動がないようにする。
- (2) 法令、広島県教育委員会の通知、選定資料等を熟読する。

平成30年度に呉市立小・中学校で使用する教科用図書の採択に係る
基本方針について

平成29年5月22日
呉市教育委員会

1 採択基本方針

(1) 採択の基本

教科用図書は、学校教育において、教科の主たる教材として使用される重要なものであることを認識し、教育基本法や学校教育法の改正で明確に示された教育の理念や目標及び学習指導要領に示された「特別の教科 道徳」の目標や内容等に則り、本市の児童生徒に最も適切な教科用図書を採択する。

その際、次の観点に基づいて、広島県教育委員会が作成する「選定資料」を活用して十分な調査・研究を行う。

- ア 基礎・基本の定着
- イ 主体的に学習に取り組む工夫
- ウ 内容の構成・配列・分量
- エ 内容の表現・表記
- オ 言語活動の充実

(2) 適正かつ公正な採択の確保

- ア 教科書発行者等による宣伝行為等に影響されることなく、採択権者の権限と責任において、採択における適正、公正を期する。
- イ 特定の教科書発行者と関係を有する者が教科書採択に関与することがないようにする。

(3) 開かれた採択の推進

- ア 採択の結果及び理由について、採択後、遅滞なく公表するものとする。
- イ 次の事項について、採択後、遅滞なく公開するものとする。
 - (ア) 教科用図書の研究のために資料を作成したときは、その資料
 - (イ) 教育委員会の会議の議事録を作成したときは、その議事録
 - (ウ) その他開かれた採択を推進する観点から有用と思われる情報

2 方法、組織及び手続

教育委員会は、広島県教育委員会の指導、助言又は援助を受け、次の方法、組織及び手続によって採択を行う。

(1) 小学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」）について

- ア 採択は、文部科学省「小学校用教科書目録（平成30年度使用）」に記載されている教科用図書のうちから行う。
- イ 教育委員会は、採択に係りその責任を明確にするとともに、教育関係者の

みならず保護者、地域住民に説明責任を果たすことができるよう、次のとおり、採択組織及び手続を確立する。

(ア) 選定委員会においては

- a 本方針に基づき、調査・研究委員に教科用図書を調査する観点等を示す。
- b 呉市の特色を生かすとともに多様な意見が反映されるよう、選定委員には保護者や学識経験者を加える。
- c 「特別の教科 道徳」の教科用図書について審議し、その結果について理由を付し、教育長に報告する。

(イ) 調査・研究委員会においては

- a 選定委員会から示された観点等に基づき、「特別の教科 道徳」の教科用図書について綿密な調査・研究を行い、報告する。
- b その際、特定の教科用図書に絞り込むことなく、全ての教科用図書の特徴について意見を付す。
- c 専門的な調査・研究を行うことから、調査・研究委員は校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭並びに教育委員会の指導主事の中から任命する。
- d 採択の公正を期すため、調査・研究委員は選定委員会の委員と重複しない。

(2) 小学校及び中学校用の教科用図書について（「特別の教科 道徳」を除く）原則、平成28年度と同一の教科用図書を採択しなければならない。

平成30年度使用教科用図書（小学校「特別の教科 道徳」）採択のための調査・研究要項

この要項は、「呉市立小・中学校で使用する教科用図書の採択に関する規程」及び「平成30年度に呉市立小・中学校で使用する教科用図書の採択に係る基本方針」に基づき、教科用図書の調査・研究に関する必要な事項を定める。

1 調査・研究の観点

調査・研究の観点は、教育基本法における教育の目標及び学校教育法における義務教育の目標を踏まえ、広島県教育委員会が示す教科用図書の調査・研究の観点に沿ったものとする。

2 呉市教科用図書選定委員会（以下「選定委員会」という）

(1) 構成及び運営

ア 次の委員の中から、委員長1名及び副委員長1名を置く。

(ア) 呉市小学校長会長1名

(イ) 保護者代表2名及び学識経験者1名

(ウ) 呉市立小学校教育研究会に属する教科部会及び道徳部会を代表する校長10名（各教科部会1名、道徳部会1名）

イ 保護者代表は、原則として呉市PTA連合会役員から2名に依頼する。

ウ 選定委員会は、原則として3回開催する。

エ 呉市教育委員会委員は、選定委員会を傍聴することができる。

(2) 任務

ア 次の手順により調査・研究する観点、内容及び範囲（以下「観点等」という。）を示し、調査・研究を呉市教科用図書調査・研究委員会（以下「調査・研究委員会」という。）に依頼する。

(ア) 道徳部会を代表する校長は、教科の特性に応じた観点等の原案を事前に作成し、選定委員会に提出する。

(イ) 選定委員会は、観点等を検討し、決定する。

(ウ) 委員長は、調査・研究委員会に観点等を示す。

イ 選定委員会は、次の手順により、調査・研究委員会の調査・研究報告書を基に、全ての教科用図書について審議し、その結果としての総合所見を作成し、教育長に報告する。

(ア) 道徳部会を代表する校長は、調査・研究委員会の調査・研究報告書を基に、全ての教科用図書について、総合所見の原案を作成する。

なお、総合所見の原案を作成する際には、「平成30年度に呉市立小・中学校で使用する教科用図書の採択に係る基本方針」及び選定委員会が示

した観点等に適しているかどうかという視点から作成する。

- (イ) 選定委員会は、調査・研究委員会の調査・研究報告書及び総合所見の原案を審議し、その結果を教育長に報告する。

3 調査・研究委員会

(1) 構成及び運営

ア 調査・研究委員は、8名以内の者を委嘱又は任命する。ただし、より幅広い視点から調査・研究を行うため、次の(ア)、(イ)、(ウ)から各1名以上を含むこととする。

(ア) 呉市立小学校長会長が推薦する校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭

(イ) 呉市中学校長会長が推薦する校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭

(ウ) 呉市教育委員会の指導主事

イ 調査・研究委員のうち、互選により代表者1名を置く。その際、代表者は、原則として校長または教頭をもって充てる。

ウ 調査・研究委員会は、原則として3回開催する。

(2) 任務

選定委員会から示された観点等に基づき、すべての教科用図書について調査・研究を行い、調査・研究報告書を作成し、選定委員会に報告する。

4 報告書及び総合所見の様式

様式は別に定める。

平成 30 年度使用小学校用教科用図書

特別の教科 道徳

選 定 資 料

平成 29 年 6 月

広島県教育委員会

はじめに

広島県教育委員会は、平成 30 年度に義務教育諸学校で使用する教科用図書「特別の教科 道徳」の「選定資料」について、広島県教科用図書選定審議会に対して諮問し、このたび答申されました。

この答申に基づき選定資料を作成しましたので、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 10 条の規定により送付します。

教科用図書は、学校教育において、教科の主たる教材として使用される重要なものです。

そのため、教育基本法や学校教育法で示された教育の理念や目標及び学習指導要領における各教科の目標や内容等に則り、本県の児童生徒に最も適切な教科用図書を採択することが必要です。

各採択権者においては、この資料を活用して教科用図書の調査研究を十分に行い、適正かつ公正な採択を行ってください。

平成 29 年 6 月

広島県教育委員会

教科用図書選定資料について

1 観点及び視点の設定について

この選定資料は、文部科学省の「小学校用教科書目録（平成 30 年度使用）」に記載された教科用図書のうち「特別の教科 道徳」について、次の五つの観点に基づいて調査研究を行い、特徴を一覧表にしたものです。

- | | |
|------|---------------|
| 観点 1 | 基礎・基本の定着 |
| 観点 2 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点 3 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点 4 | 内容の表現・表記 |
| 観点 5 | 言語活動の充実 |

2 記載の順序

選定資料に記載している順序は、文部科学省の「小学校用教科書目録（平成 30 年度使用）」に記載されている発行者順とし、発行者名は次の略称で表しています。

番号	略称	発行者名
2	東書	東京書籍株式会社
11	学図	学校図書株式会社
17	教出	教育出版株式会社
38	光村	光村図書出版株式会社
116	日文	日本文教出版株式会社
208	光文	株式会社光文書院
224	学研	株式会社学研教育みらい
232	廣あかつき	廣済堂あかつき株式会社

特別の教科 道徳

1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称			教科書名
2	東	書	新しい道徳
11	学	図	かがやけみらい 小学校 道徳 読みもの かがやけみらい 小学校 道徳 活動
17	教	出	小学道徳 はばたこう明日へ
38	光	村	道徳 きみが いちばん ひかるとき
116	日	文	小学道徳 生きる力 小学道徳 生きる力 道徳ノート
208	光	文	小学道徳 ゆたかな心
224	学	研	みんなの道徳
232	廣	あ かつ き	みんなで考え、話し合う 小学生の道徳 自分を見つめ、考える 道徳ノート

2 教科書の調査研究における観点、視点及び調査方法

観点		視点	方法
(ア)	基礎・基本の定着	① 道徳科の学び方等の示し方	オリエンテーションのタイトル、示し方、記載例
		② 主題名の示し方	主題名の示し方、具体例
		③ 発問の工夫	発問の記載箇所、数、記載例
(イ)	主体的に学習に取り組む工夫	④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫	問題解決的な学習の扱い、教材名、内容項目、問題意識の持たせ方、発問の具体例
		⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫	体験的な学習の扱い、教材名等、内容項目、体験的な学習活動の概要、体験的な活動を促す具体例
		⑥ 自己の生き方につなげる工夫	実生活に生かす教材等の扱い、具体例
(ウ)	内容の構成・配列・分量	⑦ 分量や教材の数	判型、ページ数、4つの視点ごとの教材数
		⑧ 現代的な課題等を踏まえた内容の示し方	いじめの問題の扱い、教材等の例
(エ)	内容の表現・表記	⑨ 巻頭・巻末等の取扱いの工夫	巻頭・巻末等の示し方
		⑩ 教材の内容を理解させる工夫	イラスト・マーク・キャラクター等の示し方、活用の具体例
(オ)	言語活動の充実	⑪ 考えを伝え合う活動の工夫	話し合いを促す示し方、具体例
		⑫ 考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫	考えをまとめたり、振り返ったりする活動の示し方、まとめや振り返りの頻度数、具体例

視 点	(ア) 基礎・基本の定着
視 点	①道徳科の学び方等の示し方
方 法	オリエンテーションのタイトル, 示し方, 記載例

第4学年			
	オリエンテーションの タイトル	示し方	記載例
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「これから一年間で学ぶこと」 ○ 「どうとくの学習を進めるために」 ○ 「どうとくの時間が始まるよ!」 ○ 「ちょっとみんなで話し合ってみよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き2ページに, 4つの視点ごとに, 1年間に学ぶ内容項目と教材名を示している。 ○ 見開き2ページに, 道徳の学習の流れを「1気づく」「2考える話し合う」「3ふり返る見つめる」「4生かす」の4つで示している。また, 左ページ下には, 「話し合いのやくそく」を示している。 ○ 見開き2ページに, 道徳での6つの学習活動をイラストで示している。 ○ 見開き2ページに, ショートストーリーを基に, 話し合う視点を示し, 自分の考えを書く欄を2箇所設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自分自身のこと」 <ul style="list-style-type: none"> ・正しいと思うことは自信を持って ・正直に明るい心で ○ 「さあ, 四年生のどうとくの学習を始めよう。どうとくは, 心について考え, 自分の心をゆたかにしていく時間だよ。」 ○ 「いろいろな学習のしかたがあるね。」 ○ 「そういう考えもあるんだ!」 ○ 「自分だったらと考えると, どうかね。」
学 図	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どうとくの学習を始めよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き2ページに, 道徳の学習活動のイラストや吹き出しを使い, 考える視点等を示している。 ○ 別冊「活動」では, 見開き2ページに, 教科書「読みもの」と教科書「活動」の2冊の授業での使い方を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「お話を読んで思ったこと感じたこと, 考えたことなどを, 先生や友達と伝え合ったり, 話し合ったりして, さらに広く, 深く, 自分のものにしよう。」 ○ 「『活動』には, 考えを深めていくための発問が用意してあります。みんなで考えを出し合いながら, 新しい自分を見つけましょう。」
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「四年生のどうとくの学習が始まるよ」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き2ページの右ページには, 今の自分の「好きなスポーツ」「自分の好きなところ」等6項目について書く欄と, 「目標とがんばりたいこと」を書く欄を設けている。 ○ 左ページには, 道徳の学習では, どのような学び方をするのかについて示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どうとくでは, みなさんがすすんでどうとく的なおこないができるように, 気持ちや思いを発表し, 友達の考えを聞いたり, しつ問したりしながら, 話し合いをします。その話し合いをとおして, 自分自身の心を見がき, 思いやりや親切などについての学びを深めます。」
光 村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どうとくの時間は」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き2ページに, 「話し合って考えよう」「えんじて考えよう」「読んで考えよう」「書いて考えよう」という4つの学習活動をイラストや吹き出しを使い, 考える視点等を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どうとくの時間は, 今よりももっとよい生き方ができるよう, 考えていく時間です。」 ○ 「考えたことを, 毎日の生活の中で生かしていこう。」

【特別の教科 道徳】

<p>日 文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どうとくのとびら」 ○ 「どうとくの学び方」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き2ページに、4つの視点ごとに、1年間に学ぶ内容項目を示している。また、例題を基に、道徳の意義について示している。 ○ 見開き2ページに、イラストや写真を使い、道徳の学び方を「1気づく」「2考える・深める」「3見つめる・生かす」の3つで示している。 ○ 別冊「どうとくノート」の「どうとくノートのとびら」には、4つの視点ごとに内容項目を記載し、特に学びたいものに印をつける欄を設けている。 ○ 自分の「好きな食べ物」「好きな本やお話」等5項目について書く欄を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『『どうとく』ってどんなことを学習するの?』 ○ 『『どうとく』では、よりよく生きるためにたいせつなことについて、みんなで考えるよ。』 ○ 「よりよく生きるためにたいせつなことについて、どのように考えればいいのか。」 ○ 「よりよく生きるためにたいせつなことの中で、あなたはとくにどれを学びたいのかな。」
<p>光 文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「さあ、どうとくの学習が始まります」 ○ 「どうとくの時間は、こんな時間です」 ○ 「いろいろな場面で…」 ○ 「この本の使い方」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き2ページに、4つの視点ごとに、道徳の学習で学ぶ内容を示している。 ○ 見開き2ページに、イラストを使い、道徳の学び方を「問いをもつ」「考える」「話し合う」「まとめる」の4つで示している。 ○ 見開き2ページに、イラストや吹き出しを使い、道徳で学んだことが生活に生かされる流れを示している。 ○ 見開き2ページに、教科書の使い方や道徳ノートの例を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「四年生のどうとくでは、次のようなことについて考えます。どうとくの学習を通して、どんな自分になりたいか、考えてみましょう。」 ○ 「どうとくの時間では、クラスみんなで考え、話し合う中で、考えを広げたり、深めたりしていくことが大切です。」 ○ 「どうとくの時間だけではなく、生活の中でも、問いについて考えたり、考えたことを実行してみたりしましょう。」
<p>学 研</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「道徳の学習が始まるよ」 ○ 「大きな心を育てよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き2ページの右ページに、イラストや活動例を使い、4つの学習活動（記載例上段から4つ）を示し、「道徳の学習でがんばりたいこと」について書く欄を設けている。 ○ 左ページに、自分の「好きな食べ物」「好きな遊び」等10項目について書く欄を設けている。 ○ 見開き2ページに、4つの視点ごとに、1年間に学ぶ内容項目と教材名を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「みんなの考えをよく聞いて、自分の考えをもっとふくらませよう。」 ○ 「少ない人数で話し合ってみよう。」 ○ 「自分の意見を表現してみよう。」 ○ 「書く活動を通して、自分の心の中に語りかけてみよう。」 ○ 「すてきな自分になろう」 ・正しいことは自信をもってしよう ・すなおで明るい心をもとう
<p>廣 あ か つ き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どうとくの時間はこんな時間」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1ページに、子供の写真2枚とイラストと共に、道徳の時間の意義について示している。 ○ 見開き2ページに、道徳の学習について、6つの学習活動（記載例上段2つ目から6つ）で示している。 ○ 別冊「どうとくノート」で、自分の「一番うれしかったこと」「得意なこと」「四年生でできるようになりたいこと」等8項目について書く欄を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「どうとくの時間はあなたの心の成長をおうえんする時間です。」 ○ 「自分で感じ、考えて、自分の意見を伝えましょう」 ○ 「他の人の意見をよく聞きましょう」 ○ 「いろいろな答えがあります」 ○ 「みんなで考え、話し合いましょう」 ○ 「自分を見つめ、考えましょう」 ○ 『『どうとくノート』に書きましょう』

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	②主題名の示し方
方法	主題名の示し方, 具体例

	主題名の示し方	具体例
		第1学年 教材名「はしのうえのおおかみ」 内容項目B「親切, 思いやり」
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ内容項目を扱う教材は, 同じ主題名を示している。 ○ 教材名の横に示している。 ○ 色別の4つの視点のマークと共に示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題名「しんせつ」 ・ Bの視点「ひととともに」を表すオレンジ色のマークの下に示している。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとに主題名を示している。 ○ 教材名の横に示している。 ○ 色別の4つの視点の枠内に, マーク及び内容項目と共に示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題名「しんせつなところで」 ・ Bの視点「ほかの人とのかかわり」を表したピンク色の枠内に, マーク及び「親切, 思いやり」の文字の下に示している。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ内容項目を扱う教材は, 同じ主題名を示している。 ○ 教材名の横に示している。 ○ 色別の4つの視点の枠内に, マークと共に示している。 ○ 見開き左ページの左上に文字で示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題名「あたたかいところで」 ・ Bの視点「人とのつながりにかかわること」を表したオレンジ色の枠内のマークの上に示している。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとに主題名を示している。 ○ 教材名の横に示している。 ○ 4つの視点のマークと共に, 学習のまとめごとの色で示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題名「あいてにしんせつに」 ・ Bの視点「まわりのひとをたいせつにすることについてまなびます。」を表したマークの下にオレンジ色の文字で示している。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとに主題名を示している。 ○ 教材名の横に示している。 ○ 色別の4つの視点のマークと共に示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題名「しんせつはいいきもち」 ・ Bの視点「ともだちやおせわになっているひとのかかわりをかんがえるおはなしです。」を表したオレンジ色のマークの下に示している。
光文	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとに主題名を示している。 ○ 教材名の横に示している。 ○ 色別の4つの視点のマークと共に示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題名「やさしいところ」 ・ Bの視点「みぢかなひととのこと」を表した緑色のマークの下に緑色の文字で示している。
学研	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ内容項目を扱う教材は, 同じ主題名を示している。 ○ 巻頭の見開き2ページの中で, 教材名の横に示している。 ○ 色別の4つの視点のマークと共に示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題名「おもいやり」 ・ 巻頭の見開き2ページ「ゆたかなところをそだてよう」の中で, Bの視点「あなたとわたし」を表したオレンジ色のマークの下にオレンジ色の文字で示している。
廣あかつき	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材ごとに主題名を示している。 ○ 教材名の横に示している。 ○ 色別の4つの視点の枠内にマークと共に示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題名「あいてのことをかんがえて」 ・ Bの視点「あい手とのこと」を表したマークの上のオレンジ色の枠内に示している。

【特別の教科 道徳】

視点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	③発問の工夫
方法	発問の記載箇所, 数, 記載例

	教材名「手品師」 内容項目A「正直, 誠実」	
	発問の記載箇所	数 記載例
東書	○ 教材文の終わり	2 【第6学年】主題名「せいじつに明るい心で」 ○ キャラクター「こころん」と共に記載している。 ・たった一人のお客さまの前で, 手品を演じている時の手品師の気持ちを書いて, 話し合ってみましょう。 ・あなたは, そうしたほうがよいと思ったことを行動に移せたことはありますか。
学図	○ 別冊「活動」の中	3 【第5学年】主題名「せいじつな生き方とは」 ○ 「やってみようアクティブ」マークと共に記載している。 ・「手品師」になったつもりで「男の子」と「友人」の間に立って二人と話し, 手品師の心の様子を考えましょう。 ○ 手品師と男の子のイラストや「かんがえようアクティブ」マークと共に記載している。 ・友人のさそいを断り, 男の子の前で手品を演じている時の手品師の気持ちは, どんなだったでしょう。 ○ 「みつめようアクティブ」マークと共に記載している。 ・自分自身にせいじつに行動して, 気持ちがよいと思ったことについて話し合ってみましょう。
教出	○ 冒頭の教材名の横	5 【第6学年】主題名「誠実に明るい心で」 ・みなさんは誠実に明るい心で過ごしていますか。誠実に生きるとはどのようなことでしょうか。
	○ 教材文の終わり	○ 「学びの手引き」に記載している。 ・友人からステージへの出演の電話を受けたとき手品師はどのようなことを考えていたでしょう。 ・手品師はどうして男の子のところへ行ったのでしょうか。話し合ってみましょう。 ・手品師のすばらしいところはどこでしょう。みんなの意見を聞いてみましょう。 ・誠実に生きるとは, どのようなことでしょうか。自分の考えをまとめて発表しましょう。
光村	○ 冒頭の教材名の下	5 【第6学年】主題名「自分の心に誠実に」 ○ キャラクター「こころん」と共に記載している。 ・だれかと約束したのに守れなかったことって, ある?
	○ 教材文の終わり	○ 「考えよう」のコーナーに, 『誠実に生きる』とは, どういうことだろう。」というめあてと共に記載している。 ・友人の「いい話」を聞きながら, 手品師は, どのようなことを思っていたでしょう。 ・手品師は, どのような思いから, たった一人のお客さまの前で手品をすることを選んだのでしょうか。 ・「誠実に生きる」とは, どのような生き方でしょう。 ○ 「つなげよう」のコーナーに, キャラクター「きらりん」と共に, 記載している。 ・誠実さって, どうして大切なんだろう。

【特別の教科 道徳】

日 文	○ 冒頭の教材名の 下	6	<p>【第6学年】主題名「明るく生きる」</p> <p>○ キャラクター「ココロウ」と共に記載している。 ・「手品師」というお話をとおして、みんなで考えましょう。</p>
	○ 教材文に続く見 開き2ページ		<p>○ キャラクター「ココロウ」と共に「学習の手引き」に記載している。 ・「明るく生きる」ことについて、手品師になりきって考えてみよう。</p> <p>○ 手品師と男の子のイラストや、児童二人が会話する写真と共に記載している。 ・迷いに迷っている手品師の気持ちについて考えましょう。</p> <p>○ 手品師と友人のイラストと共に記載している。 ・チャンスを見送って、男の子との約束を果たそうと決心する手品師。その決め手となった思いは何でしょう。</p> <p>○ 手品師と男の子のイラストと共に記載している。 ・たった一人のお客様の前で、手品を演じているときの手品師は、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○ 「道徳ノート」のマークと共に記載している。 ・この学習をとおして、どんな生き方がたいせつだと思ったかな。</p>
光 文	○ 冒頭の教材名の 横	7	<p>【第5学年】主題名「誠実に生きる」</p> <p>○ イラストと共に記載している。 ・あなたは、本気でなやんだことがありますか。</p>
	○ 教材文の下段		<p>○ キャラクター「ゆたかさん」の吹き出しに記載している。 ・男の子に、「きっと来るよ。」と答えたとき、手品師は、どのようなことを思っていたのかな。</p> <p>○ キャラクター「みらいさん」の吹き出しに記載している。 ・「友人」から電話をもらって、手品師がなやんだのは、どんなことだったのかな。</p> <p>○ キャラクター「わんだ先生」の吹き出しに記載している。 ・手品師は、なぜ大劇場に出られるチャンスをことわったのかな。</p> <p>○ キャラクター「トーリー」の吹き出しに記載している。 ・手品師は、どのような思いで、男の子の前で手品をしているのでしょうか。</p>
	○ 教材文の終わり		<p>○ 「まとめるマーク」と共に記載している。 ・手品師の生き方をどう思いますか。また、あなたはどのような生き方がしたいですか。</p> <p>○ 「ひろげるマーク」と共に、記載している。 ・「誠実に生きる」とは、どういうことだと思いますか。みんなで話し合ってみましょう。</p>
学 研	○ 教材文の終わり	2	<p>【第5学年】主題名「誠実に生きる」</p> <p>○ 「考えよう」のコーナーに記載している。 ・友人からのさそいの電話がかかってきたとき、手品師は心の中でどんなことを考えたでしょう。 ・自分が手品師だったら、どんなことを大切にしますか。</p>
廣 あ か つ き	○ 教材文の終わり	5	<p>【第6学年】主題名「大切なもの」</p> <p>○ 「考えよう話し合おう」の「学習の道すじ」のコーナーに、「手品師の迷いと決断を通して、誠実であることのすばらしさについて考える。」というめあてと共に記載している。 ・手品師は、どのようなことを考えて迷っていたのでしょうか。 ・手品師はどのように考えて、友人のさそいをきっぱりと断ったのでしょうか。 ・「ぼくにとっては」という手品師の言葉の意味を、生き方として考えてみましょう。 ・人に対して誠実に応えることができたとき、どんな気持ちになりますか。</p>
	○ 別冊「道徳ノ ト」の中		<p>○ タイトル「誠実に明るい心で」の中に記載している。 ・誠実に生きることは、どうして大切なのでしょうか。</p>

観点	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	④問題解決的な学習を取り入れた工夫
方法	問題解決的な学習の扱い、教材名、内容項目、問題意識の持たせ方、発問の具体例

	問題解決的な学習の扱い	第6学年	
		教材名、内容項目 問題意識の持たせ方	発問の具体例
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題を見つけて考える教材には、目次及び該当ページに、マークを付けて示し、教材の終わりに、問題を解決するための「考えるステップ」を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「タマゾン川」 ○ 「D 自然愛護」 ○ 「とびらページ」に、川の写真とともに「この川になにがおこっているのだろうか？」と示している。 ○ 外来種によって生態系が破壊されていることを基に、自然とのふれ合い方について考えさせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「考えるステップ」に記載している。 ・ 飼えなくなった生き物を多摩川へにがす人の気持ちについて考えましょう。 ・ 「タマゾン川」はどうして生まれるのでしょうか。 ・ 自然や生き物とふれ合ううえで、大切にしたい心とはなんでしょうか。 ・ あなたが考える、解決していく必要のある自然環境の問題はなんですか。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決的な学習に適した教材には、別冊「活動」の中に、「はなしあおう」のマークを付けて示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「羊飼いの指輪」 ○ 「A 善悪の判断、自律、自由と責任」 ○ 長老の問いかけをとおして、自分勝手な行動の結果や周囲の人々の思いを考えさせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 別冊「活動」の中に、活動のマーク（「はなしあおう」「かんがえよう」「みつめよう」）と共に記載している。 ・ もしもあなたがこの指輪を持っていたら、どんなことを思いますか。 ・ みんなが羊飼いの指輪を持っている世界で生活するとしたら、どのような思いをもつことが必要でしょうか。 ・ 何かを自由にできる力を得たとき、その力をどう使いたいと思いますか。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決的な学習ができるよう、教材の終わりに、「学びの手引き」を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「天から送られた手紙」 ○ 「A 真理の探究」 ○ 冒頭の教材名の横に「私たちの身の回りには解き明かされていないなぞがたくさんあります。そうしたなぞを、先人はどのように探究してきたのでしょうか。」と示している。 ○ 雪の研究の第一人者である中谷宇吉郎の生き方とおして、真理の探究について考えさせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学びの手引き」の中に記載している。 ・ さまざまな雪の結しょうを調べ始めたとき、中谷宇吉郎はどのような気持ちだったでしょう。 ・ 実験装置の中で雪の結しょうができたとき、中谷宇吉郎はどのような気持ちになったでしょう。 ・ 中谷宇吉郎が雪の研究を続けることができたのは、どうしてでしょう。みんなで話し合ってみましょう。 ・ みなさんは中谷宇吉郎の、どのようなところがすごいと思いましたか。

【特別の教科 道徳】

<p>光 村</p>	<p>○ 問題解決的な学習ができるよう、教材の終わりに、「考えよう」のコーナーを設け、学習のめあて等を示している。</p>	<p>○ 「六年生の責任って？」 ○ 「C よりよい学校生活、集団生活の充実」 ○ 冒頭の教材名の横に「六年生として、君が下級生や先生から頼りにされていると思うのはどんなことかな。」と示している。 ○ よりよい学校にしていくために、最高学年として何ができるかを話し合う場面をもとに、社会の発展のために寄与する大切さについて考えさせている。</p>	<p>○ 「考えよう」のコーナーに、「より良い学校にしていくために六年生として、どんなことができるだろう。」というめあてと共に記載している。 ・六年生が見回って片づけをしたら、学校はどうなるでしょう。また、横山さんの意見を受けて、六年生も美化委員会も片付けなかったら、学校はどうなるでしょう。 ・あなたのクラスで、この話し合いの続きをしてみましょう。 ・六年生の責任とは、どのようなものだと思いますか。</p>
<p>日 文</p>	<p>○ 問題解決的な学習ができる教材には、目次及び該当ページに、マークを付けて示し、教材の終わりに、「学習の手引き」を設け、学習展開例を示している。</p>	<p>○ 「クラスのきまり」 ○ 「C 規則の尊重」 ○ 冒頭の教材名の横に「約束やきまりを守って楽しく生活するには、どんな心がまえが必要でしょう。」と示している。 ○ そうじをさぼっている人に罰を与えることについて、賛成、反対の立場から、きまりについて考えさせている。</p>	<p>○ 「学習の手引き」の中に、「1問題をつかもう。」「2自分なりに考えよう。」「3問題について話し合おう。」「4問題を解決するときにはたいせつな考え方について話し合おう。」の順に記載している。 ・さとるとひろみは、それぞれどんなことを主張しているのでしょうか。 ・それぞれの主張のよいところ、よくないところを考えましょう。 ・考えたことについて、となりどうしやグループで交流しましょう。 ・あなたなら、よりよいきまりを考えるにあたって、どんな提案をするか考えましょう。</p>
<p>光 文</p>	<p>○ 問題の解決に取り組むことができるよう、冒頭の教材名の横や教材文の下段に、問いを示している。</p>	<p>○ 「マナーからルールへ、そしてマナーへ」 ○ 「C 規則の尊重」 ○ 冒頭の教材名の横に『マナー』と『ルール』は、どちらがうのでしょうか。『たばこのポイ捨て』の例から考えてみましょう。」と示している。 ○ たばこのポイ捨てを減らす取組をもとに、ルールやマナーの大切さを考えさせている。</p>	<p>○ 教材文の下段にキャラクターと共に記載している。 ・たばこのポイ捨てがなくならないのは、どうしてかな。 ・あなたは、過料をとることについて、どう思いますか。 ・ルールをマナーに高めるためには、どうしたらいいのかな。</p>

【特別の教科 道徳】

<p>学 研</p>	<p>○ 「深めよう」のコーナーを教材の終わりに設け、問題解決的な学習の道筋を示している。</p>	<p>○ 「チョモランマ清掃登山隊」 ○ 「D 自然愛護」 ○ 「深めよう」のコーナーの中に、「清掃登山を続ける野口さんを支えているのは、どんな思いだろう。」と示している。 ○ 登山家野口さんの体験と活動を通して、自然と共存するために必要なことについて考えさせている。</p>	<p>○ 「深めよう」のコーナーの中に、「つかもう→探そう→ふみ出そう」の順に記載している。 ・チョモランマに捨てられたごみの写真を見て、どう感じましたか。 ・自然との共存のために、どんなことを大切にしたいと思いますか。 ・さまざまな命が生きる、かけがえない地球。「自然とともに生きている」と感じたことを、みんなで話し合ひましょう。</p>
<p>廣 あ か つ き</p>	<p>○ 問題解決的な学習ができるよう、教材の終わりに、「考えよう話し合おう」のコーナーを設け、「学習の道すじ」の中で、学習のめあて等を示している。</p>	<p>○ 「自由という名の席」 ○ 「C 規則の尊重」 ○ 「考えよう話し合おう」のコーナーの中に、「新幹線の中での出来事を通して、きまりを守って自他の権利を尊重し、義務を果たすことの大切さについて考える。」と示している。 ○ 満員の新幹線で、席取りをしている人と、座れない人との言い合いをもとに、自他の権利について考えさせている。</p>	<p>○ 「学習の道すじ」にめあてとともに記載している。 ・車両のおくで言い合う男女それぞれの言い分を、あなたはどのように思いますか。 ・吉村さんは「自由席」と書かれたプレートを見上げて、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・だれもが気持ちよく過ごせるように、公共の場では、どんなことに注意しなければならないのでしょうか。</p>

見出し	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	⑤体験的な学習を取り入れた工夫
方法	体験的な学習の扱い、教材名等、内容項目、体験的な学習活動の概要、体験的な活動を促す具体例

	体験的な学習の扱い	第3学年	
		教材名等、内容項目 体験的な学習活動の概要	体験的な活動を促す具体例
東書	○ 「出会う・ふれ合う」のマークを使い、目次及び該当ページに示している。	○ 「さいこうにうれしい『おはよう!』」 ○ 「B 礼儀」 ○ 気持ちの良いあいさつを実際にやってみて考える活動。	○ 「さいこうにうれしい『おはよう!』」をしたらどうするか考え、シートに書く。 ○ シートを基に、グループで「さいこうにうれしい『おはよう!』」を考え、実際にやってみる。 ○ 活動を通して気付いたことや感じたことを発表し合う。
学図	○ 「やってみよう」のマークを使い、別冊「活動」の中に示している。	○ 「言葉のまほう」 ○ 「B 礼儀」 ○ 言い争いになった時と、自分の悪さをみとめて声をかけ合った時の気持ちを演じて考える活動。	○ 別冊「活動」の中で、「やってみよう」のマークと共に発問を記載し、役割演技を促している。 ・言いあらそいになった時と、自分の悪さをみとめて声をかけ合った時とでは、「ぼく」の気持ちはどうちがっているでしょう。
教出	○ 「スキル」のマークを使い、目次及び該当ページに示したり、「学習の手引き」の中に、「ジャンプ」のマークを示したりしている。	○ 「どうしていけないのかな」 ○ 「B 礼儀」 ○ スーパーマーケットの店員のおじさんや客のおばあさんに、どのように話せばよいかを演じて考える活動。	○ 教材文の途中の「やってみよう①②③」のコーナーに、場面の状況を示した挿絵と共に発問を記載し、役割演技を促している。 ・まなみさんと店員のおじさんになってえんじてみましょう。 ・まなみさんとお客のおばあさんになってえんじてみましょう。 ・まなみさんはどういえばよかったのでしょうか。もう一度えんじてみましょう。
光村	○ 「考えよう」のコーナーの中に、「○○になったつもりで、話してみよう」「演じてみよう」等の学習活動を示している。	○ 「持ってあげる? 食べてあげる?」 ○ 「B 親切、思いやり」 ○ みきちゃんやたけし君に頼まれた時、どのように行動すればよいかを演じて考える活動。	○ 教材文の中に、2つの場面を示し、発問と共に役割演技を促している。 ・みきに「ランドセル、持って。」と言われたとき、「わたし」は、何と答えたらよいと思いますか。「わたし」役とみき役に分かれて、えんじてみましょう。 ・「わたし」は、たけしに何と答えたらよいと思いますか。「わたし」役とたけし役に分かれて、えんじてみましょう。

【特別の教科 道徳】

<p>日 文</p>	<p>○ 「劇をしたり、体を動かしたりして考える」マークを使い、目次及び該当ページに示している。</p>	<p>○ 「どんどん橋のできごと」 ○ 「A 節度、節制」 ○ まことくんが川の中に傘を入れようと言った場面と、傘が壊れてみんなが慰めてくれた場面の気持ちを演じて考える活動。</p>	<p>○ 「学習の手引き」に、「よく考えて行動することについて、『ぼく』になりきって考えてみよう。」というめあてを示し、発問と共に役割演技を促している。 ・「ぼく」がかさを入れるまでの場面をたいけんしてみましょう。 ・みんながなぐさめてくれた場面をたいけんしてみましょう。 ・えんじてみてどんな気持ちになりましたか。 ・見ていて、自分の考えとくらべて、どう思いましたか。</p>
<p>光 文</p>	<p>○ 学習したことが生活の場での体験につながるよう、体験的な学習を促す教材を掲載している。</p>	<p>○ 「生きたれいぎ」 ○ 「B 礼儀」 ○ 礼儀について学習した後、和食のマナーであるはしの正しい使い方をやってみて考える活動。</p>	<p>○ 「おはしを正しくつかいましょう」と示し、正しい箸の持ち方や取り方をイラストと共に示している。 ○ 当たり前のように使っている箸の使い方を見直すよう促している。</p>
<p>学 研</p>	<p>○ 「やってみよう」のマークを使い、目次及び該当ページに示している。</p>	<p>○ 「貝がら」 ○ 「B 友情、信頼」 ○ 教材の主人公「ぼく」が中山君にどのように話すかを演じて考える活動。</p>	<p>○ 教材の終わりに、「やってみよう」「役わりえんぎ」のマークと共に発問を記載している。 ・病気がなおった「ぼく」が、学校で中山君に会ったときの場面を、想ぞうしてえんじましょう。 ・自分なら中山君に何を話すか、考えてみましょう。 ・えんぎする人は自由にえんじよう。 ・見る人は自分ならどう言うか考えながら見よう。</p>
<p>廣 あ か つ き</p>	<p>○ 「考えようはなしあおう」のコーナーに、学習を広げる内容として、「活動しよう」のマークを示している。</p>	<p>○ 「あめ玉」 ○ 「C 規則の尊重」 ○ 女の子たちの行動とそれを見た「わたし」の思いを演じて考える活動。</p>	<p>○ 「考えようはなしあおう」のコーナーの中に、「学習を広げる」内容として、マークと共に発問を記載し、役割演技を促している。 ・女の子（お姉さん）と妹のやり取りを、役わりを交代しながらえんじよう。えんじることで、それぞれの気持ちを感じ取りましよう。</p>

【特別の教科 道徳】

視 点	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
視 点	⑥ 自己の生き方につなげる工夫
方 法	実生活に生かす教材等の扱い，具体例

	実生活に生かす 教材等の扱い	具体例（第4学年）
東 書	○ 他の教科の学習とつなげたり，普段の生活に広げたりすることができるよう，教材の後ろに「つながる・広がる」のページを設けている。	○ タイトル「守ろう，自然やそこに住む生き物たちを」 ○ タイトルの横に「つながる・広がる」のマークを示している。 ○ 他の教科との関連として「社会・理科」と示している。 ○ キャラクター「こころん」が投げかけている。 ・みんなのまわりには，どんな生き物がいるかな？どんなことができるかな？ ○ ウミガメ，コウノトリを守る活動をしている児童の様子を5枚の写真と共に示している。
学 図	○ 道徳の学習を自らの生活と関連付けて考えられるよう，「言葉，情報モラル」「生き方を学ぼう」等の5つの視点を基にした，6つの「読みものコラム」を掲載している。	○ タイトル「みんなで楽しく食事をしよう」 ○ タイトルの横に「気を付けよう，気づかおう」と示している。 ○ 関連する内容項目として，マークと共に「礼儀」と示している。 ○ 「おしゃべり」「食事のしせい」「食器の持ち方」の3項目を取り上げ，他の人の目にとまった時，「スマートだ」と言える食事の仕方について示している。
教 出	○ 他教科等への学びに発展し，深められるよう，巻末に「補充教材」として，「こころざしをもって」「国やきょう土を愛する」等の視点を基に，4～5つの読み物を掲載している。	○ タイトル「動物たちの命を守る—熊本市動物愛護センターのちょう戦—」 ○ タイトルの横に「命を大切に」と示している。 ○ 動物愛護センターやふれあい訪問教室の写真，動物愛護センター所長の話をもとに，「命」について考えさせている。
光 村	○ 自己の生き方についての考えを深められるよう，教材と「情報モラル」「環境」「国際理解」等の視点を基にしたコラムを組み合わせた「ユニット」を2～5つ設けている。	○ タイトル「見えないしょうがい気づくこと」 ○ タイトルの上に「共に生きる」と示している。 ○ キャラクター「きらりん」が投げかけている。 ・「こまっていることの例」には，いろいろあることを知っておこう。 ○ 「見た目には分からなくてもこまっていることの例」として，「耳が聞こえにくい」「人工関節や義足」等の例を5つ示している。

【特別の教科 道徳】

<p>日 文</p>	<p>○ 他の教育活動と関連付け、より広く深く考えることができるよう、「心のベンチ」を設けている。</p>	<p>○ タイトル「守りたい、この自然」 ○ タイトルの横に「心のベンチ」と示している。 ○ キャラクター「ココロウ」が投げかけている。 ・貴重な自然や生き物を守ろうとする活動が、日本各地で行われています。 ○ ホタル（福岡県）、ニッポンバラタナゴ（奈良県）、キンランなど（東京都）を守る活動をしている児童の様子を7枚の写真と共に示している。</p>
<p>光 文</p>	<p>○ 他教科や特別活動等の学習につなげて考えることができるよう、「情報モラル」「スポーツ」等の題材を扱ったコラムを掲載している。</p>	<p>○ タイトル「地域のねがいのでつくられ、守られてきたもの」 ○ 「地域のねがいのでつくられ、守られてきたもの」として、白洲灯台（福岡県）、玉川上水（東京都）、広村ていぼう（和歌山県）について、その写真と概要を掲載し、自分たちの地域にも目を向けさせている。 ・みなさんの地域にもこのようなものがないか、さがしてみましよう。</p>
<p>学 研</p>	<p>○ 教材で学習したことを基に、自分の生活や生き方につなげて考えることができるよう、「つなげよう」「広げよう」等の4種類の「学び方のページ」を掲載している。</p>	<p>○ タイトル「『命』ってどんなものですか」 ○ タイトルの上に「つなげよう」と示している。 ○ 「『命』ってあたたかい」という題の児童作文を、乳児を抱えている児童の写真と共に掲載している。 ○ 出生時のことを家族に聞き取りをした児童の感想文を2点掲載している。 ○ 出生時のことを聞く活動を促し、書く欄を設けている。 ・あなたが生まれた時のことを、家の人に聞いて書きましよう。</p>
<p>廣 あ か つ き</p>	<p>○ 他の教育活動との関連を図りながら、身近な問題として考えることができるよう、巻末に、「生命尊重」「ともに生きる社会」「情報モラル」についての読み物を掲載している。</p>	<p>○ タイトル「だれもが住みよい社会に」 ○ 車いすに乗った男性を囲んでいる家族の写真と共に投げかけている。 ・これからの日本をつくっていくのはわたしたち。わたしたちにできることから、考えてみましよう。 ○ 「『バリアフリー』ってなあに」と示し、段差のない電車の出入り口などの例を3枚の写真と共に掲載している。 ○ 3枚の写真と共に投げかけている。 ・身の回りのバリアフリーを見つけてみましよう。 ・バリアフリーのアイデアを出し合い、話し合ってみましよう。</p>

【特別の教科 道徳】

観点	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑦分量や教材の数
方法	判型、ページ数、4つの視点ごとの教材数

	学年	判型 (別冊判)	ページ数 (別冊ページ数)	4つの視点ごとの教材数 (※複数内容項目教材)			
				A	B	C	D
東 書	第1学年	AB	120	11	9	9	6
	第2学年		140	10	8	10	8
	第3学年		162	9	8	12	7
	第4学年		166	10	8	11	7
	第5学年		178	8	7	13	8
	第6学年		194	9	7	12	8
学 図	第1学年	AB (AB)	122 (50)	11	7	10	6
	第2学年		130 (50)	11	8	10	6
	第3学年		142 (50)	10	9	10	6
	第4学年		158 (50)	10	9	10	6
	第5学年		154 (54)	9	7	12	7
	第6学年		154 (54)	9	7	12	7
教 出	第1学年	AB	122	9	6	11	7
	第2学年		134	9	8	9	8
	第3学年		138	10	8	12	4
	第4学年		146	9	8	12	5
	第5学年		154	8	6	14	6
	第6学年		154	12	6	11	5
光 村	第1学年	B5	129	10	8	11	5
	第2学年		153	10	8	12	5
	第3学年		177	9	9	12	5
	第4学年		185	9	9	12	5
	第5学年		197	9	9	11	6
	第6学年		209	8	9	11	7

【特別の教科 道徳】

日 文	第1学年	AB (B5)	146 (41)	11	8	14	4
	第2学年		166 (42)	11	8	13	6
	第3学年		178 (42)	10	10	12	6
	第4学年		186 (42)	11	10	11	6
	第5学年		186 (42)	8	※10	※15	7
	第6学年		186 (42)	9	8	※14	※9
光 文	第1学年	A4 変形	158	12	9	12	7
	第2学年		166	11	9	13	7
	第3学年		182	7	12	14	7
	第4学年		186	8	11	14	7
	第5学年		190	10	9	12	9
	第6学年		194	10	8	13	9
学 研	第1学年	A4	132	11	8	9	6
	第2学年		136	11	8	10	6
	第3学年		152	9	9	11	6
	第4学年		156	9	9	11	6
	第5学年		164	9	9	9	8
	第6学年		168	9	9	9	8
廣 あ か つ き	第1学年	AB (AB)	118 (60)	11	8	10	5
	第2学年		118 (60)	11	8	11	5
	第3学年		126 (64)	10	9	11	5
	第4学年		138 (64)	10	9	11	5
	第5学年		162 (72)	11	8	10	6
	第6学年		170 (72)	11	8	10	6

【備考】全ての発行者に掲載されている教材名 () は、複数ある場合の教材名

教材名	学年	教材名	学年
かぼちゃのつる	第1学年	花さき山	第3, 4学年
はしの上のおおかみ	第1学年	ブラッドレーのせい求書 (お母さんのせい求書)	第3, 4学年
金のおの (きんのおの ぎんのおの)	第1, 2学年	雨のバスていりゅう所で	第4学年
七つのほし (ひしゃくぼし)	第1, 2学年	手品師	第5, 6学年

現示	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視念	⑧現代的な課題等を踏まえた内容の示し方
方法	いじめの問題の扱い、教材等の例

	いじめの問題の扱い	第5学年
		教材等の例
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめを題材として扱った直接的教材と、いじめを直接扱わない間接的教材の2つを、1つのユニットとして組み合わせた「いじめのない世界へ」を設けている。 ○ 「いじめのない世界へ」は、マークを使い、目次及び該当ページに示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ とびらページ「いじめのない世界へ やなせたかさんの言葉」 ○ 「転校生がやってきた」 <ul style="list-style-type: none"> ・主題名「差別やへんげんのない公正・公平なたいで」 ・内容項目「C 公正, 公平, 社会正義」 ○ 「ノンステップバスのでできごと」 <ul style="list-style-type: none"> ・主題名「相手の立場に立って親切に」 ・内容項目「B 親切, 思いやり」
学図	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめという直接的な表現を多用することなく、日常生活で起こりうる問題から考えられる教材を選定している。 ○ 「公正, 公平, 社会正義」の内容項目を中心として、発達段階に応じて「友情, 信頼」「親切, 思いやり」などの内容項目においても教材を選定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「言葉のおくりもの」 <ul style="list-style-type: none"> ・主題名「みんな友達」 ・内容項目「B 友情, 信頼」 ○ 「マリアン・アンダーソン」 <ul style="list-style-type: none"> ・主題名「差別を乗り越えて」 ・内容項目「C 公正, 公平, 社会正義」 ○ 「明の長所」 <ul style="list-style-type: none"> ・主題名「個性をのばす」 ・内容項目「A 個性の伸長」
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ問題を扱う教材には、重点的に扱うマークを使い、目次及び該当ページに示している。 ○ 「公正, 公平, 社会正義」の内容項目を中心として、発達段階に応じて「友情, 信頼」「親切, 思いやり」などの内容項目においても教材を選定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「知らない間のできごと」 <ul style="list-style-type: none"> ・主題名「豊かな人間関係をつくる」 ・内容項目「B 友情, 信頼」 ○ 「だれかをきずつける機械ではない」 <ul style="list-style-type: none"> ・主題名「正義の実現のために」 ・内容項目「C 公正, 公平, 社会正義」
光村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な内容項目からいじめ問題に結び付く教材とコラムを1つのユニットとして設けている。 ○ いじめ問題のユニットを学年の前半に位置付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「すれちがい」 <ul style="list-style-type: none"> ・主題名「広い心で」 ・内容項目「B 相互理解, 寛容」 ○ 「どうすればいいのだろう」 <ul style="list-style-type: none"> ・主題名「公正・公平な態度とは」 ・内容項目「C 公正, 公平, 社会正義」 ○ コラム「相手の気持ちを考えよう —『いじめ』の映画作りから」

【特別の教科 道徳】

<p>日 文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ防止をテーマとし、「公正、公平、社会正義」や「友情、信頼」、「生命の尊重」などの内容項目の教材を1つのユニットとして設けている。 ○ いじめ防止のユニットは、「心のベンチ」と組み合わせ、学期に1回位置付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「マンガ家 手塚治虫」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名「たいせつな自分らしさ」 ・ 内容項目「A 個性の伸長」 ○ 「名前のない手紙」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名「正義の実現」 ・ 内容項目「C 公正、公平、社会正義」 ○ 心のベンチ『「いじめ」の傍観者』
<p>光 文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめ防止について、直接的・間接的に考えられる教材とコラム「みんな仲良し楽しい学校」を発達段階に合わせて選定している。 ○ 「公正、公平、社会正義」の内容項目を中心として、発達段階に応じて「友情、信頼」「親切、思いやり」などの内容項目においても教材を選定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ガンジーのいかり」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名「正義をつらぬいた人」 ・ 内容項目「C 公正、公平、社会正義」 ○ 「ドッジボールを百倍楽しくする方法」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名「勝つよりもすてきなこと」 ・ 内容項目「B 友情、信頼」 ○ 『スイミー作戦』『ガンジー作戦』 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名「いじめに負けないために」 ・ 内容項目「C 公正、公平、社会正義」
<p>学 研</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめを題材として扱った直接的教材と、いじめを直接扱わない間接的教材を選定している。 ○ 第3・4学年では、重点テーマを「仲よく生きる」と設定し、いじめ防止に関連した教材を複数時間扱うことができるように位置付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「台湾からの転入生」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名「相手の心を知って」 ・ 内容項目「B 親切、思いやり」 ○ 「日本の『まんがの神様』」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名「もっと自分らしく」 ・ 内容項目「A 個性の伸長」 ○ 「いじめをなくすために」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名「公正公平な社会を求めて」 ・ 内容項目「C 公正、公平、社会正義」
<p>廣 あ か つ き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめを題材として扱った直接的教材と、いじめを直接扱わない間接的教材を選定している。 ○ 「公正、公平、社会正義」の内容項目を中心として、発達段階に応じて「友情、信頼」「親切、思いやり」などの内容項目においても教材を選定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「金曜日の班活動」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名「広人の発表」 ・ 内容項目「A 善悪の判断、自律、自由と責任」 ○ 「魚の世界」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名「広い海へ」 ・ 内容項目「C 公正、公平、社会正義」 ○ 「ぼくの名前よんで」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主題名「初めて見たなみだ」 ・ 内容項目「C 家族愛、家庭生活の充実」

【特別の教科 道徳】

視 点	(エ) 内容の表現・表記
注 意	⑨巻頭・巻末等の取扱いの工夫
方 法	巻頭・巻末等の示し方

	巻頭等の示し方	巻末等の示し方
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目次には、掲載している全ての教材名を示している。 ○ 第2学年以上は、「これから一年間で学ぶこと」として、4つの視点ごとに教材名を見開き2ページで示している。 ○ 第2学年以上は、「道徳の学習を進めるために」を見開き2ページで示している。 ○ 第2学年以上は、「道徳の時間が始まるよ!」を見開き2ページで示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年、「学習のふり返し」を3ページ、「かがやく自分に!」を1ページで示している。 ○ 第1学年は、礼儀に関する内容等、各教科等との関連、家庭や地域との連携等の付録を5ページ、第2学年以上は、伝統文化やスポーツ等の付録を6ページで示している。 ○ 第1学年は、「これから1年間で学ぶこと」として4つの視点ごとに教材名を1ページで示している。
学 図	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目次には、4つの視点で色分けしたマークと共に、掲載している全ての教材名を示している。 ○ 各学年、「道徳の学習を始めよう」を見開き2ページで示している。 ○ 各学年の別冊「活動」の目次には、4つの視点で色分けしたマークと共に、掲載している全ての教材名を示している。 ○ 各学年、別冊「活動」には、使い方の説明を見開き2ページで示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年、内容項目別教材一覧を4つの視点別で示している。 ○ 「道徳の学習をふり返ろう」を1ページで示している。 ○ 別冊「活動」には、話合いの仕方として、第1・2学年は「活動のヒント」を5ページ、第3学年以上は「活動の資料」を3ページで示している。 ○ 各学年の別冊「活動」には、保護者向けに4つの視点の内容と共に、めざすこと、教材名を示している。
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目次には、4つの視点で色分けしたマークと共に、掲載している全ての教材名を示している。 ○ 各学年、「道徳の学習が始まるよ」を見開き2ページで示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年、「1年間の道徳の学習をふり返ろう」を1ページで示している。 ○ 第1・2学年には、「身に付けよう礼儀・マナー」を4ページで示している。 ○ 各学年、内容項目別教材一覧を4つの視点別で示している。
光 村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目次の前には、命をテーマにした詩を見開き2ページで掲載している。 ○ 各学年の目次には、学習のまとまりを表すマークと共に、掲載している全ての教材名を示している。 ○ 第2学年以上には、「道徳の時間は」を見開き2ページで示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学びの記録」を第1・2学年は1ページ、第3学年～第6学年は2ページで示している。 ○ 第3学年以上には、各分野で活躍している人からのメッセージを1ページ、日本の伝統文化について2ページ、「わたしたちの学ぶ世界」を2ページで示している。第5・6学年には、「感情を表すときの言葉」を1ページで示している。「よりよい人間関係を築くためのこつ」を第1学年～4学年は1ページ、第5・6学年は2ページで示している。 ○ 各学年、内容項目別教材一覧を4つの視点別で示し、現代的な課題等との関わり、他教科・領域の関わりを記載している。

【特別の教科 道徳】

日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目次には、4つの視点で色分けをし、掲載している全ての教材名を示している。 ○ 各学年、「道徳のとびら」を見開き2ページで示している。 ○ 各学年、「道徳の学び方」を見開き2ページで示している。 ○ 別冊「道徳ノート」の目次には、各学年、4つの視点で色分けをし、掲載している全ての教材名を示している。各学年、「道徳ノートのとびら」を1ページで示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年、内容項目別教材一覧表を4つの視点別で示している。 ○ 各学年、別冊「道徳ノート」には、「道徳の学習で学んだことを書きましょう。」を1または2ページで設けている。
光 文	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目次には、4つの視点で色分けをし、掲載している全ての教材名を示している。 ○ 各学年、「さあ、道徳の学習が始まります」を見開き2ページで示している。 ○ 各学年、「道徳の時間は、こんな時間です」を見開き2ページで示している。 ○ 各学年、「いろいろな場面で・・・」を見開き2ページで示している。 ○ 各学年、「この本の使い方」を見開き2ページで示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容項目別教材一覧を4つの視点別で示し、関連性のある内容項目を記載している。 ○ 各学年、折り込みで「学びの足あと」を設けている。
学 研	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目次の前には、詩を見開き2ページで掲載している。 ○ 各学年の目次には、4つの視点で色分けをし、掲載している全ての教材名を示している。 ○ 各学年、「道徳の学習が始まるよ」「自分のことを書いてみよう」を見開き2ページで示している。 ○ 各学年、4つの視点ごとの教材一覧を見開き2ページで示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年、内容項目別教材一覧を4つの視点別で示し、他の教科等との主な関連を記載している。 ○ 各学年、「心の宝物ー学びの足あとー」を1ページで設けている。
廣 あ か つ き	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目次には、掲載している全ての教材名を示している。 ○ 各学年、詩を1ページで掲載している。 ○ 第1学年は、「どうとくのじかんは」を1ページ、第2学年以上は、「道徳の時間はこんな時間」を3ページで示している。 ○ 別冊「道徳ノート」の各学年の目次には、4つの視点で色分けをし、掲載している全ての教材名を示している。「今の自分を見つめて」「自分を見つめて」を見開き2ページで示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年、内容項目と共に、掲載している全ての教材名を示している。 ○ 各学年、4つの視点ごとに色分けされた教材一覧を見開き2ページで示している。 ○ 各学年、別冊「道徳ノート」には、折り込みで「心のしおり」を設けている。

項目	(エ) 内容の表現・表記
項目	⑩教材の内容を理解させる工夫
方法	イラスト・マーク・キャラクター等の示し方、活用の具体例

	イラスト・マーク・キャラクター等の示し方	活用の具体例
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの視点をマークで示している。 ○ 「出会う・ふれ合う」のマークを設定している。 ○ 第3学年以上は、「つながる・広がる」のマークを設定している。 ○ 第3学年以上は、「問題を見つけて考える」のマークを設定している。 ○ 「いじめのない世界へ」のマークを設定している。 ○ 「情報モラル」をマークで示している。 ○ キャラクター「こころん」を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材名の上に、該当する4つの視点を示している。 ○ 「出会う・ふれ合う」は、コミュニケーション活動による相互理解を深める学習ができることを示している。 ○ 「つながる・広がる」は、各教科等と関連づけた学習ができることを示している。 ○ 「問題を見つけて考える」は、問題解決的な学習ができることを示している。 ○ 「いじめのない世界へ」は、いじめを許さない心を育てることができる学習を示している。 ○ 「情報モラル」は、情報モラル教育ができることを示している。 ○ キャラクター「こころん」を使い、第1・2学年は、ポイントになる発問を示している。第3学年以上は、それぞれの教材の終わりに、ポイントになる発問と自分の生活を見つめる発問を示している。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの視点をマークで示している。 ○ 「読みものコラム」のマークを設定している。 ○ 別冊「活動」のページをマークで示している。 ○ 別冊「活動」には、「考えよう」「見つけよう」「アクティブ」のマークを設定している。 ○ 教科書「読みもの」のページをマークで示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材名の上に、該当する4つの視点と内容項目を示している。 ○ 「情報モラル」「いじめ問題」「防災・安全教育」「キャリア教育」等を読みものコラムとして示している。 ○ 該当する別冊「活動」のページを教材名の下に示している。 ○ 「考えよう」は中心発問、「見つけよう」は後段での発問、「アクティブ」は「はなしあおう」「やってみよう」「かいてみよう」等、道徳的価値に迫る効果的な学習活動を示している。 ○ 該当する「読みもの」のページを教材名の下に示している。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの視点をマークで示している。 ○ 現代的な課題を読み解く教材をマークで示している。 ○ 「スキル」をマークで示している。 ○ 「ジャンプ」をマークで示している。 ○ 子供のイラストを示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題名の下に、該当する4つの視点を示している。 ○ 「いじめをなくす」は黄、「情報モラル」は青、「生命尊重」は赤と、色別のマークで分け、目次及び該当ページに示している。 ○ 「スキル」は体験を通して考えを深める学習を示している。 ○ 「ジャンプ」は役割演技を促す発問等を示している。 ○ 「学びの手引き」の中で、子供のイラストを使い、児童の心の動きを示している。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年間を4つのまとまりに分けた「学習のまとまり」をマークで示している。 ○ 4つの視点をマークで示している。 ○ 「コラム」をマークで示している。 ○ 「考えよう」のマークを設定している。 ○ 第2学年以上は、「つなげよう」のマークを設定している。 ○ キャラクター「こころん」「きらりん」を設定している。 ○ 第3学年以上は、子供のイラストを示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活の実態に即して、4・5月、6～9月、10～12月、1～3月のまとまりを色別のマークで示している。 ○ 主題名の上に、該当する4つの視点を示している。 ○ 現代的な課題について考えることができる内容について、「コラム」として示している。 ○ 「考えよう」は学びのめあてを示している。 ○ 「つなげよう」は他教科等との関連や日常生活への意識づけ等を示している。 ○ 主題名の下に、キャラクター「こころん」が疑問や考えるポイントを示している。また、教材の最後に、キャラクター「きらりん」が学習したことを生活に広げる発問を示している。 ○ 学習の助けとしてヒントや例等を子供のイラストで示している。

【特別の教科 道徳】

<p>日 文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの視点をマークで示している。 ○ 教材の学び方をマークで示している。 ○ キャラクター「ココロウ」を設定している。 ○ キャラクター「はるひと」「あかね」「なおや」「りさ」を設定している。 ○ 「考えてみよう」「見つめよう生かそう」のマークを設定している。 ○ 「ふろく」をマークで示している。 ○ 「心のベンチ」をマークで示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材名の上に、該当する4つの視点を示している。 ○ 教材名の下に、学び方マークを使い、体験的な学習や問題解決的な学習、パソコンやインターネットを使って深める学習であることを示している。 ○ 教材の中で、学習をガイドするキャラクター「ココロウ」が、疑問や考えるポイントを示している。 ○ 教材の終わりに、キャラクター「はるひと」「あかね」「なおや」「りさ」が、発問を示している。 ○ 教材の終わりに、考えてみたい発問やこれからの自分に生かしていきたい発問を示している。 ○ 補充用の教材を「ふろく」として示している。 ○ 学習を広げ深めるページを「心のベンチ」として示している。
<p>光 文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの視点と、各学年で特に考えたいことをマークで示している。 ○ キャラクター「みらいさん」「ゆたかさん」「トリー」「わんだ先生」を設定している。 ○ 「まとめる」「ひろげる」マークを設定している。 ○ 「みんなでやってみよう！」のマークを設定している。 ○ 「情報モラル」「コラム」「ふろく」をマークで示している。 ○ 「ことばのたからもの」のマークを設定している。 ○ 「みんな仲良く楽しい学校」のマークを設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題名の横に、該当する4つの視点や各学年で特に考えたいことを示している。 ○ 児童の思考をサポートするキャラクターが、考えるためのポイントや考えを広げるための見方などを示している。 ○ 教材の終わりに、「まとめる」「ひろげる」マークを使い、まとめや、広げ深める発問を示している。 ○ 「みんなでやってみよう！」のマークを使い、人間関係を豊かにするコラムを示している。 ○ 情報モラルを扱う教材や関連教材であることを示している。 ○ 教材と関連させ、言葉の意味を理解させるよう、「ことばのたからもの」のマークを示している。 ○ 学校生活の大切さを学ぶことができるよう、キャラクターのイラストを使って示している。
<p>学 研</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの視点をマークで示している。 ○ 最重点テーマと重点テーマをマークで示している。 ○ 「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」のマークを設定している。 ○ 「情報モラル」をマークで示している。 ○ 「?考えよう」のマークを設定している。 ○ 鉛筆のマークを設定している。 ○ 家のマークを設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材名の上に、該当する4つの視点を示している。 ○ 最重点テーマと重点テーマについては、複数時間扱いで教材を選定し、教材の左上にマークを示している。 ○ 「学び方のページ」として、学習を広げ、深めるページに示している。 ○ 情報モラルについて考えるページの右下に示している。 ○ 各教材の最後に、「?考えよう」のマークを使い、発問を示している。 ○ 自分の考えや友達の考えを記述できるように示している。 ○ 集団・社会との関わりを重視し、家庭と連携する学習活動を示している。
<p>廣 あ か つ き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの視点をマークで示している。 ○ 第3学年以上には、教材と関連し学びを深める特集を葉のマークで示している。 ○ 第3学年以上には、「学習の道すじ」を表すマークを示している。 ○ 第3学年以上には、「学習を広げる」マークを示している。 ○ 別冊「道徳ノート」に鉛筆のマークを設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材名の下に、該当する4つの視点を示している。 ○ 第3学年以上は、教材と関連して、学びを深めるための特集ページを設けている。 ○ 第3学年以上の「考えよう話し合おう」のコーナーの中に、「学習の道すじ」を表すマークと共に、学習のめあてを示している。 ○ 第3学年以上の「考えよう話し合おう」のコーナーの中に、「学習を広げる」マークと共に、学習内容を広げたり深めたりできるように示している。 ○ 別冊「道徳ノート」の中に、教材を通して感じたことや考えたことをまとめるための書く欄を示している。

見出し	(才) 言語活動の充実
視点	⑩考えを伝え合う活動の工夫
方法	話し合いを促す示し方, 具体例

		第5学年	
		話し合いを促す示し方	具体例
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「道徳の学習を進めるために」の中に、話し合う活動を示し、「話し合いの約束」として、話し合いのポイントを示している。 ○ 巻頭の「ちょっとみんなで話し合ってみよう」の中にショートストーリーを例とし、自分の考えをもつ活動を設定し、話し合いの状況を示している。 ○ 教材の終わりに、教材における話し合う学習活動を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「話し合いの約束」 <ul style="list-style-type: none"> ・聞くときは・・・ ・話すときは・・・ ○ 「あなたの考えを書いてみよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ・人によっていろいろな考えがあるんだな。 ○ 教材名「ベートーベン」 <ul style="list-style-type: none"> ・あなたはどんなゆめや希望を持っていますか。それを実現させるために、どうしたらよいか話し合ってみましょう。 	
学 図	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「道徳の学習を始めよう」の中に、話し合いの状況を示している。 ○ 別冊「活動」の巻末に「活動の資料」のページを設け、話し方、聞き方、話し合いのポイントを示している。 ○ 別冊「活動」の中に、「はなしあおう『アクティブ』」のマークを使い、教材における話し合う学習活動を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ぼくだったらこうするよ。」「わたしは、こうしたほうがいいと思うな。」 ○ 「上手な話し方・きき方」 <ul style="list-style-type: none"> ・相手がきき取れる速さで、ゆっくりと話しましょう。 ○ 教材名「たんていのつもりが・・・」 <ul style="list-style-type: none"> ・あやしい人を見かけた勇介と幸太はどのようなことを考えて行動に移したのでしょうか。 	
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「五年生の道徳の学習が始まるよ」の中に、話し合いの意義や活動について示している。 ○ 教材の終わりの「学びの手引き」の中に、話し合いの具体的な状況を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「自分の思いや考えを発表し、友達の考えを聞いたり、質問したりしながら、話し合いをします。」 ○ 教材名「知らない間のできごと」 <ul style="list-style-type: none"> ・電話のあとに、あゆみさんとみかさんはどのような友達になったでしょう。みんなで話し合ってみましょう。 	
光 村	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「道徳の時間は」の中に、「考えよう」というキーワードを用いた学習活動の一環として、話し合いの具体的な状況を示している。 ○ 巻末に、「感想を表すときの言葉」のページを設け、自分の感じたことを伝えるための語彙を示している。 ○ 教材の終わりの「考えよう」の中に、教材における話し合う学習活動を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「話し合って考えよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・わたしとは、ここが同じで、ここがちがう。 ・もっとくわしく考えを聞かせて。 ○ 「感想を表すときの言葉」 <ul style="list-style-type: none"> ・心を打たれる ・心が温まる ○ 教材名「ケンタの役割」 <ul style="list-style-type: none"> ・整理したことをもとに、ケンタが何と言ったか、グループで話し合いましょう。 	

【特別の教科 道徳】

<p>日 文</p>	<p>○ 巻頭の「道徳の学び方」の中に、話し合いの具体的な状況を示している。</p> <p>○ 「学習の手引き」や「心のベンチ」の中に、話し合いの流れを示している。</p> <p>○ 教材の終わりの「学習の手引き」の中に、教材における話し合う学習活動を示している。</p>	<p>○ 「話し合ってみよう」</p> <p>○ 「話し合ってみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考える。 ・グループで意見を出し合う。 ・全体で意見の交流や話し合いを行う。 <p>○ 教材名「たのむよ、班長」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合ったことをもとに、「集団での役割」について、どんな考え方がたいせつか、学級全体で話し合ってみましょう。
<p>光 文</p>	<p>○ 巻頭の「道徳の時間は、こんな時間です」の中の、学習の手順に、話し合う活動を提示し、話し合いのポイントを示している。</p> <p>○ 教材の終わりに、教材における話し合う学習活動を示している。</p>	<p>○ 「話し合う」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人の考えを聞いて話し合い、考えを深めましょう。 ・自信がなくてもだいじょうぶ。自分の意見を伝えよう。 ・友だちの話をよく聞いて、質問したり、つけ足したりするといいね。 <p>○ 教材名「うばわれた自由」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級や学校で、「本当の自由」を大切にするにはどうすればよいか、話し合いましょう。
<p>学 研</p>	<p>○ 巻頭の「道徳の学習が始まるよ」の中の、学習の手順に、話し合う活動を提示し、話し合いのポイントを示している。</p> <p>○ 「学び方のページ」の中に「活動」の欄を設け、話し合いのポイントを示している。</p> <p>○ 教材の終わりに、教材における話し合う学習活動を示している。</p>	<p>○ 「語り合い、考えを練ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の考えを書き留める。 ・周りの人や、クラスのみなどと話し合う。 <p>○ 「活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループやクラスで、考えたことを話し合ってみましょう。 ・クラス全体で、さまざまな考えを確かめてみましょう。 <p>○ 教材名「おもしろければいいの」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを楽しく安全に使うためのルールを考えてみましょう。みんなで話し合ってみましょう。
<p>廣 あ か つ き</p>	<p>○ 巻頭の「道徳の時間はこんな時間」の中に、学習全体でねらいとする活動や内容を紹介し、話し合いの意義やポイントを示している。</p> <p>○ 教材の終わりに、教材における話し合う学習活動を示している。</p>	<p>○ 「自分で感じ、考えたことを伝え、他の人の意見をよく聞きましょう」</p> <p>○ 「さまざまな答えがあります」</p> <p>○ 「みんなで考え、話し合いましょう」</p> <p>○ 教材名「ちゃんとやれよ、健太」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」になったつもりで、健太をはげますメールの文章を書いてみましょう。また、友達と文章を交かんし合って、メールを受け取った相手がどのような気持ちになるか、話し合ってみましょう。

【特別の教科 道徳】

見点	(才) 言語活動の充実
視点	⑫考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫
方法	考えをまとめたり、振り返ったりする活動の示し方、まとめや振り返りの頻度等、具体例

	第4学年		
	考えをまとめたり、振り返ったりする活動の示し方	まとめや振り返りの頻度等	具体例
東書	○ 巻末に、心に残った教材や友達の意見、感じたことや考えたことなどを記録する、振り返りのページを設けている。	○ 「学習のふり返し」 【授業14時間分、長期休業前3回分】 ○ 「これからもかがやく自分に！」 【記入欄2箇所】	○ 「学習のふり返し」 ・心にのこったお話や友だちの意見、感じたことや考えたことなどを書いておこう。 ○ 「これからもかがやく自分に！」 ・4年生になってからのことを思い出してみよう。
学図	○ 巻末に、学習の感想をマークで描いたり、学習した日にちを書いたりして、学習を振り返る欄を設けている。	○ 「どうとくの学習をふり返ろう」 【毎時間分】	○ 「どうとくの学習をふり返ろう」 ・「学習の記録」のらんに学習の感想をマーク（心に残った・・・♡、深く考えた・・・☆）でかいたり、学習した日にちを書いたりして、学習をふり返りましょう。
教出	○ 巻末に、1年間の道徳の学習で一番心に残ったことなどを記入する、振り返りのページを設けている。	○ 「一年間のどうとくの学習をふり返ろう」 【記入欄3箇所】	○ 「一年間のどうとくの学習をふり返ろう」 ・一年間のどうとくのじゅ業で、いちばん心に残ったのはどの時間でしたか。 ・一年間で、自分の考え方や行動がどのように変わりましたか。 ・五年生になって、がんばりたいことはなんですか。
光村	○ 「学習のまとめ」ごとに、区切りのページを設け、「学びの記録」と共に、自分の学びの変化や学んだことが生かしたことを記入する、「まとめ」の欄を設けている。	○ 「学びの記録」 【毎時間分】 ○ 「まとめ」 【4回分】	○ 「学びの記録」 ・どんなことを学んだのかということや、学んだことについての感想などを記録しましょう。 ○ 「まとめ」 ・どうとくの時間に考えたことで、生活に生かしたことを書こう。 ・自分で自分が「変わったな」と思えたことを書こう。

【特別の教科 道徳】

<p>日 文</p>	<p>○ 別冊「道徳ノート」に、学習の自己評価欄や、巻末に、道徳の学習で心に残ったことなどを記入する、振り返りのページを設けている。</p>	<p>○ 「今日の学習はどうでしたか。あてはまるところに○をつけましょう。」 【毎時間分】 ○ 「どうとくの学習で学んだことを書きましょう」 【4回分】</p>	<p>○ 「今日の学習はどうでしたか。あてはまるところに○をつけましょう。」 ・しっかり考えた ・新しく気づいたことがあった ○ 「どうとくの学習で学んだことを書きましょう」 ・心に残ったお話を書きましょう。その理由も書きましょう。</p>
<p>光 文</p>	<p>○ 巻末に、学習した日付け、教材番号、授業後の心の動きや学びを記録する、振り返りの欄を設けている。また、学期末や年度末に、道徳で学んだことを振り返って記入する、「まとめ」の欄を設けている。</p>	<p>○ 「学びの足あと」 【毎時間分】 ○ 「まとめ」 【3回分】</p>	<p>○ 「学びの足あと」 ・授業を受けた後の気持ちを矢印で表しましょう。なぜ、そのような矢印にしたのか、わけや、感じたことを書きましょう。 ○ 「まとめ」 ・どうとくで学んだことを、まとめましょう。</p>
<p>学 研</p>	<p>○ 巻末に、道徳の学習を通して、心に残ったことや話などを記入し、1年間の学びを振り返るページを設けている。</p>	<p>○ 「心のたから物」 【記入欄5箇所】</p>	<p>○ 「心のたから物」 ・道徳の学習をして、心にふえたたから物や、心に残った話を書いておきましょう。</p>
<p>廣 あ か つ き</p>	<p>○ 別冊「道徳ノート」に、考えたり振り返ったりしたことを書く欄や、巻末に、心に残っている授業などについて記録するページを設けている。また、自己評価をしたり、内容項目ごとの振り返りをしたりする折り込みを設けている。</p>	<p>○ 「今日のじゅ業で感じたことや考えたことを書きましょう。」 【内容項目ごとに授業2時間分】 ○ 「心に残っているじゅ業の記録」 【4回分】等 ○ 「心のしおり」 【毎時間分】 【内容項目分】</p>	<p>○ 「今日のじゅ業で感じたことや考えたことを書きましょう。」 ○ 「心に残っているじゅ業の記録」 ・心に残っている理由 ○ 「心のしおり」 ・できたかな ・自分をふり返ってみましょう</p>